

公益財団法人 森村豊明会助成

UNESCO ASPnet
アジア・北欧 5 か国中高生による ESD/SDGs 国際フォーラム
— 韓国、タイ、フィリピン、リトアニア、日本 —

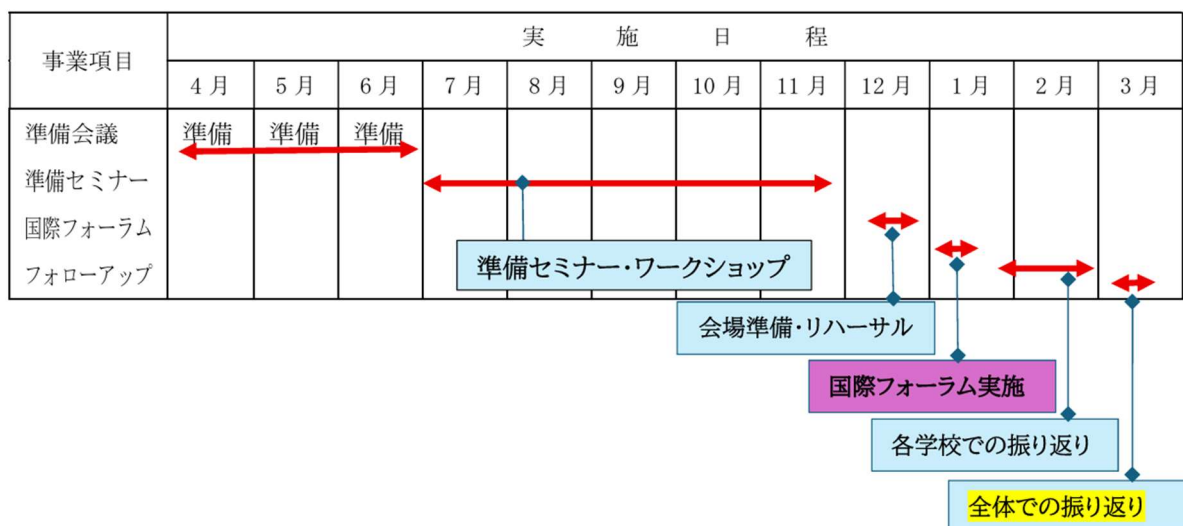
報告書

大阪・関西ユネスコスクール(ASPnet)ネットワーク

第 I 章

－ 概要 －

1. 事業の実施日程(概要)



2. 事業の目的確認と事業報告の概要・ポイント

1) 事業の目的:

国際的な緊張と不安が広がる中にありながらも、人々は相互の信頼とよき未来を望み、同時にその形成者の一人としてあり続けようと努力をしている。今次の韓国、タイ、フィリピン、リトアニア、日本の5カ国中高校生国際フォーラムは、このような若者の内心をより発展させるために UNESCO によって国際的に展開されている人権・平和・公正・幸福などを推進する ESD/SDGs の取り組みについて、各国・各校で進めている学びや実践を共有し、国際フォーラム・ディスカッションを通じて共に未来を共創する国際連帯を深める。

2) 報告の概要:

- ・2025年4月から『大阪・関西ユネスコスクールネットワーク』に参加する小中高校18校+支援大学学生による「国際フォーラム」開催のための準備セミナーが開催された。
- ・約7か月にわたり開催された準備セミナーを経て、2026年1月に冒頭の『アジア5か国中高校生による ESD/SDGs 国際フォーラム』が開催され、参加した韓国・タイ・フィリピン・リトアニアの中高校生と共に“共同宣言”を発して大きな成功を収めることができた。
- ・本報告書は、準備段階での参加者の成長と国際フォーラム当日の多国間のディスカッション等を通じた国際交流の深化、ならびに国際連帯の実際を報告する。

3) 事業に参加した ASPnet 校(ユネスコスクール)等 一覧 <支援大学含む>

(幼小中学校)

アサンプション国際小学校、大阪府立富田林中学校、関西創価中学校、
神戸市立大沢中学校※1、神戸龍谷中学校高等学校、富田林市立富田林幼
稚園※2、奈良県立国際中学校、箕面子どもの森学園、

(※1 国際フォーラム当日は参加できず。 ※2 国際フォーラム当日のみ参加)

(高等学校)

大阪教育大学附属高校池田校舎、大阪成蹊女子高校、大阪府立佐野高校
大阪府立住吉高校、大阪府立富田林高校、大阪府立長野高校、大阪府立
松原高校、大阪府立淀川清流高校、帝塚山学院中学校高等学校、奈良育
英高校、奈良県立国際高校、奈良県立法隆寺国際高校、兵庫県立川西明
峰高校

(大 学) 大阪公立大学、大阪大学、神戸女学院大学

以上、幼小中高 21 校 (当日 19 校) ・ 3 大学の生徒学生約 190 名参加 (教員別)

4) 事業報告のポイント:

1. 参加する児童生徒が海外参加者を迎えるに相応しいユネスコスクール (ASPnet) としての「ESD」や「平和の文化」を体現できるハートとスキルを向上させる「研修(A)」の様子。
2. 国際フォーラムを生徒自身が自立的に運営できるよう、協働して企画したり探究をしたりしてフォーラムを築き上げる実践力を備えるための「研修(B)」の様子。
「研修(A)・(B)」は相互に関係しており、運営側 (日本側) の都合を海外からの参加者に強いることがないよう、特に注意して進められることを共有して行われた。同時にこのことは 18 校の教員全体にも共有され、海外からの学校と交流する以前に、異なる学校背景や事情があることや、自校の成果や生徒のことにのみ専念することなく、いかに協働することの意味を体現できるかを念頭に準備が進められた。
3. 上記の準備を通じて開催された『アジア 5 か国中高生による ESD/SDGs 国際フォーラム』の展開と成果

5) 事業の準備・開催日程

事業の準備・開催日程は、児童生徒への教育の観点、記録を残す観点、課題・成果を引き継ぐ観点から会議は数種類の準備会議から構成された。

- ・コーディネーター会議：各校のスクールコーディネーターによる共有と検討の会議
- ・準備セミナー：ユネスコの考え方、国際会議の創り方に関する生徒・教員向けの研修会
- ・協働準備会：各学校の枠を超えた進行や運営、プレゼンなどの協働での準備会
- ・リハーサル：上記会議や準備・セミナーを通じて準備した国際フォーラムの予行演習
- ・スタディツアー：海外参加者と日本側生徒との奈良世界緯線地域への合同学習会

6) 2025 年度事業の活動・実施スケジュール

(日付順)

2025 年 4 月 27 日	第 1 回コーディネーター会議	大阪公立大学 i-site なんば
2025 年 5 月 24 日	総会で詳細共有	大阪公立大学 i-site なんば
2025 年 7 月 20 日	第 1 回準備セミナー	大阪公立大学 i-site なんば
2025 年 8 月 8 日	第 2 回準備セミナー	大阪府立住吉高等学校
2025 年 9 月 7 日	第 2 回コーディネーター会議	大阪公立大学 i-site なんば
2025 年 9 月 28 日	第 3 回コーディネーター会議	大阪公立大学 i-site なんば
2025 年 10 月 12 日	第 3 回準備セミナー	大阪公立大学 i-site なんば
2025 年 11 月 19 日	第 4 回準備セミナー (協働準備会)	大阪教育大学天王寺キャンパス
2025 年 12 月 14 日	第 5 回準備セミナー (協働準備会)	大阪府立住吉高等学校
2025 年 12 月 14 日	第 4 回コーディネーター会議	大阪府立住吉高等学校
2025 年 12 月 26 日	リハーサル (1 回目)	大阪公立大学 森ノ宮キャンパス
2026 年 1 月 6 日	リハーサル (2 回目)	大阪教育大学 天王寺キャンパス
2026 年 1 月 9 日	韓国、タイ、フィリピン、リトアニアから到着(歓迎会)	
2026 年 1 月 10 日	奈良世界遺産への 5 か国スタディツアー	
2026 年 1 月 11 日	国際フォーラム 1 日目	大阪公立大学森ノ宮キャンパス
2026 年 1 月 12 日	国際フォーラム 2 日目	大阪教育大学天王寺キャンパス
2026 年 1 月 13 日	各国は離日	
2026 年 3 月 8 日	国際フォーラムの振り返り会	大阪教育大学天王寺キャンパス
2026 年 3 月 8 日	第 5 回コーディネーター会議	大阪教育大学天王寺キャンパス

(種類別日程・目次)

第 II 章 ①-(1) 教員によるコーディネーター会議 —実施内容の詳細検討および準備— … P6～

2025 年 4 月 27 日	第 1 回コーディネーター会議
2025 年 5 月 24 日	大阪関西ユネスコスクールネットワーク総会で概要共有
2025 年 9 月 7 日	第 2 回コーディネーター会議
2025 年 9 月 28 日	第 3 回コーディネーター会議
2025 年 12 月 14 日	第 4 回コーディネーター会議
2026 年 3 月 8 日	第 5 回コーディネーター会議

② (2) 児童生徒の上記研修(A)(B)を行う「準備セミナー」 …… P7～

2025 年 7 月 20 日	第 1 回準備セミナー
2025 年 8 月 8 日	第 2 回準備セミナー
2025 年 10 月 12 日	第 3 回準備セミナー第一ユニット

②-(1) 参加 18 校の枠を超えた生徒による「協働準備会」 …… P13～

2025 年 11 月 19 日	第 4 回準備セミナー (協働準備会)
2025 年 12 月 14 日	第 5 回準備セミナー (協働準備会)

②-(2) 「研修(A)・(B)」の成果による国際フォーラム運営の「リハーサル」 …… P18

2025 年 12 月 26 日	リハーサル (1 回目) 会場：大阪公立大学 (森之宮 C)
------------------	--------------------------------

2026年 1月 6日 リハーサル (2回目) 会場：大阪教育大学 (天王寺 C)

- ③ 「研修(A)・(B)」の成果を踏まえた「(海外参加者)奈良世界遺産スタディツアー」実施
奈良世界遺産へのプレ・スタディツアー (10日) -5カ国の生徒が一緒に-
……P24

- 第III章 ④ 国際フォーラム開催 2026年1月11日(第1日目)・12日(第2日目) ……P25
アジア・北欧5か国中高生による ESD/SDGs 国際フォーラムの開催(11・12日)

- 第IV章 ⑤ 国際フォーラムの振り返り 2026年3月8日 ……P43

以上の準備日程および実施日程によって“5か国高校生国際フォーラム”が「大阪公立大学森之宮キャンパス」(1日目)、「大阪教育大学天王寺キャンパス」(2日目)にて開催され、歴史的な宣言文を採択して終えることができた。なお、二日間でのべ 366人が集まる国際フォーラムとして大きな注目を浴びるなど成功を収めた。

7) 成果物

- (1) 国際フォーラムディスカッションプロセス(要点)(P34)
 - ・2026年1月11日 国際フォーラム1日目ディスカッション内容
 - ・2026年1月12日 国際フォーラム2日目ディスカッション内容
- (2) 国際フォーラム『5か国共同宣言文』(P39)
- (3) 2026年3月8日 国際フォーラムの振り返り(P40)
- (4) エンディングで流した記録動画(P56)

第Ⅱ章

第1章の概要を踏まえて、第Ⅱ章では国際フォーラム当日までの準備プロセスとその様子をまとめる。特に生徒自身が国際フォーラムを運営できるように、ユネスコのハート部分と運営スキルを身につけて行くプロセスである。

1. 事業の計画と準備

【総会】

「大阪・関西ユネスコスクールネットワーク」は、毎年5月ごろに総会を開催し、1年間の活動内容やユネスコスクールとしての活動の基盤となる研修会を開催している。2025年5月24日に開催された総会では次のことについて承認され、研修会を行った。

1. 2025年度役員選出（代表、事務局長、事務局員、顧問等の選出・承認）
2. 2024年度事業報告（事業報告）
3. 2025年度事業計画（2025年度開催予定事業の計画）
4. 研修会：大阪府立淀川清流高校／奈良県立国際中学校・高等学校 実践報告



【コーディネーター会議】

①-(1) 各学校のスクールコーディネーターによる会議(コーディネーター会議)

第1回コーディネーター会議（2025年4月27日）では2025年度の活動計画案の検討と5月の総会に向けた準備作業が各学校の先生方による協働作業で行われた。



2025年9月7日 第2回コーディネーター会議

- ・第2回コーディネーター会議の準備
- ・第4回ワークショップの準備
- ・1月の国際フォーラムに向けての準備日程の再調整

2025年9月28日 第3回コーディネーター会議

- ・第4回ワークショップの準備について
- ・1月の国際フォーラムに向けての準備日程の再調整
- ・ユネスコ新勧告の内容研修

2025年12月14日 第4回コーディネーター会議

- ・第4回ワークショップの準備について
- ・国際フォーラム（1/9～1/13）に向けた全日程の「タイムテーブル」最終確認
- ・国際フォーラム「係別タイムテーブル」の確認

2026年3月8日 第5回コーディネーター会議

- ・成果の振り返り
- ・報告書作成などの役割分担

2. 国際フォーラム 準備セミナー

①-② 児童生徒の上記「研修(A)(B)」を行う「準備セミナー」

目的と概要：

「研修(A)」

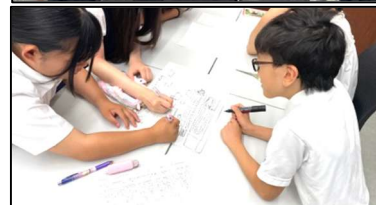
準備セミナーを通じて、参加する児童生徒が海外参加者を迎えるに相応しいユネスコスクール(ASPnet)としての「ESD」や「平和の文化」を体現できるハートとスキルを向上させる。

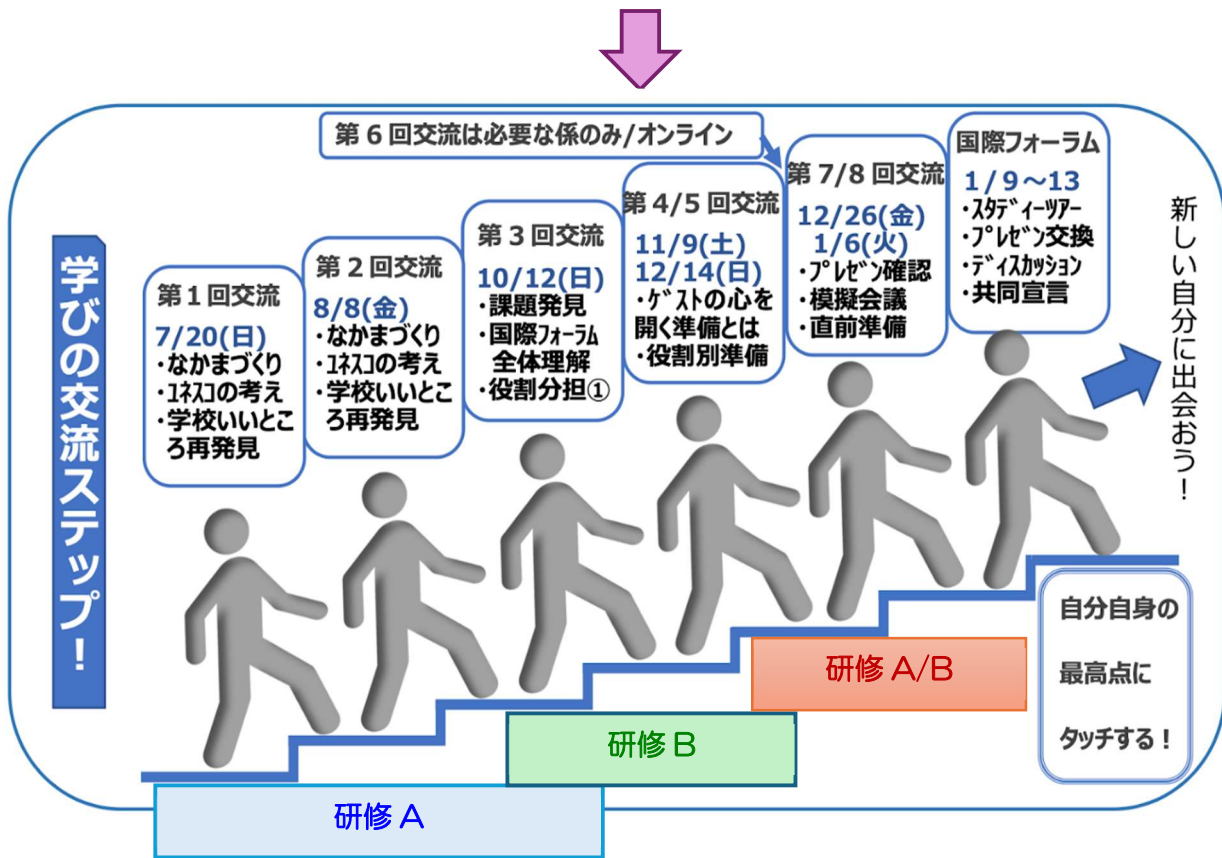
「研修(B)」

国際フォーラムを生徒自身が自立的に運営できるよう、協働して企画したり探究をしたりしてフォーラムを築き上げる実践力を備えるための研修。

「研修(A)(B)の統合化」

「研修(A)・(B)」は相互に関係しており、運営側（日本側）の都合を海外からの参加者に強いることがないよう、特に注意して進められることを共有して行われた。同時にこのことは参加校の教員全体にも共有され、海外からの学校と交流する以前に、異なる学校背景や事情があることや、自校の成果や生徒のこのみに専念することなく、いかに協働することの意味を体現できるかを念頭に準備が進められた。これらは、参加生徒が階段を昇るイメージで成長していく内容を示す。





国際フォーラム[研修 A]

第 1 回準備セミナー 7月 20 日(日) 9:30-12:30
(大阪公立大学 i-site なんば)

テーマ : ASPnet って? ESD ってなに?

人と自然がつながり続け、幸せを共有できる社会を築き、
次の世代につなぎ続けるには何が必要なのか。世代を超えた普遍の価値とは・・・



タイムテーブルと実施内容

時間	内容 受付：(向井) 司会：(棚田)	備考
9:00	受付開始 受付時にファミリーを示す(向井)	機材などは大教大池田が持参
9:30	第1ユニット <ul style="list-style-type: none"> ・開会宣言 (棚田) ・挨拶 大阪関西 ASPnet 顧問 (大阪公立大学 伊井直比呂) ・先生紹介(蒲生) ・ファミリー自己紹介(峯川) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー分け 全15班 ・全体の予定説明 ・分からないことは分からないと言える、お互いに助けあう約束
10:00	基本編 ①ここはどういうところなのか、何をするのか全体説明(畠山)	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いを知る
10:20	②ESD、UNESCOの考え方 (竹村紗季) ③毎年やります「あいこじゃんけん」 (市橋)	
10:35	休憩	
10:45	第2ユニット ①学校紹介(全19校) (向井) <ul style="list-style-type: none"> ・1校2分で学校紹介! 入れ替え30秒以内目標 ・学校の好きな場所やHappyになれる場所の写真をシェア <ul style="list-style-type: none"> ①学校名 ②学校がどこにあるか ③場所の写真3つ 	予め送ってもらった写真を投影する
11:30	②グループワーク(松本) Happy写真の振り返り Happyを支える要因 (よりHappyになる要因)	15班分 <ul style="list-style-type: none"> ・マジック ・ふせん3色? ・模造紙
12:00	Happyが崩壊する要因...選んだ場所がHappyじゃなくなる時	
12:15	→各ファミリー模造紙にまとめる まとめた後は各自歩いて見て回り、共有 時間があればいくつか抜粋して前に投影	
12:30	アンケート(竹村颯真)	
12:45	次回予告(治部) 閉会宣言(棚田) 完全撤収	<ul style="list-style-type: none"> ・BGM流す?



国際フォーラム[研修 A]

第2回準備セミナー 8月8日(金) 9:30-12:30

(大阪府立住吉高等学校 北畠会館)



タイムテーブルと実施内容

時間	内容 受付：(向井) 司会：(棚田)	備考
9:10	受付開始 受付時にファミリーを示す (向井)	ファミリー毎 15 班に 着席：レイアウト表示 (松本)
9:30	第1ユニット ・開会宣言 (棚田) ・奈良育英 学校紹介 (棚田) ・関西創価中学校 正式加盟のご案内 (棚田)	
9:40	①ファミリーでアイスブレイク (原條)	
10:00	②前回の振り返り (治部) Happy の促進要因 (前回のまとめ)	15 班分の ・マジック ・ふせん 3 色? ・模造紙
11:00	地域(学校外のコミュニティ)にも派生させたい! ⇒プレゼンチームのネタにもできるように	
	休憩	

	第2ユニット	
11:10	③役割の紹介 ・2008年と2014年の動画(峯川) ・具体的な係の説明(市橋) ・子ども達へのメッセージ/キーワード(竹村紗季) 「協力は強力」「分業無責任にならない」 ・海外ゲスト来日時のスケジュール共有 簡易(松本) →ホームステイ2泊分 1/10(土)・1/11(日)募集	生徒にイメージをもってもらうような写真を集めておく。
12:00	④宿題:各学校のHappyな場所でHappyな10秒動画を撮ろう (治部) →次回10/12(日)の時に提出 →繋ぎ合わせた動画を事前にゲストに送ろう!	
12:15 12:30	⑤アンケート実施(竹村颯馬) 完全撤収	
	昼休憩	北畠会館にて持ち込みの食事可能
13:30 16:30	コーディネーター会議@大阪府立住吉高等学校北畠会館	

国際フォーラム[研修A]

第3回準備セミナー 10月12日 9:00~13:00
(大阪公立大学 i-site なんば)

異なる学校、異なる年代、異なる地域の生徒と一緒に考えあうスキルと同時に、それを当たり前とするハートを習得する。その上でフォーラム当日の役割を個人単位で決定。



②-(1) 参加 18 校の枠を超えた生徒による「協働準備会」

国際フォーラム[研修 B]

第 4 回準備セミナー 11 月 19 日 9:00~12:00
(大阪教育大学天王寺キャンパス)
(協働準備会)

第 4 回 準備セミナー(協働準備会)の成果 (先生方へのアンケート)

Q:それぞれ係で行ったこと(進捗)や気づいたこと、生徒の変容についてお書きください。

- ① 議長団 担当：竹村(紗)先生(帝塚山学院高校教員) 原條先生(奈良育英高校)
「議長団」とは何かを明確にするために、2014 年度に実施した世界大会のディスカッションの様子を収めた動画を見ることから始めた。議長団の役割や仕事内容についてのイメージが共有できたところで、議長がディスカッションの進行中に発する言葉に注目し、すべての国を尊重し、公平を期するためにはどのような態度と言葉選びをすべきか、議長としてのふるまいについて、それぞれの意見を共有した。また議長団の中での役割(議長、公平性確認係、キーワード抽出係、翻訳と整合性確認係)についても確認した。
- ② プレゼン班 担当：蒲生先生(アサンプション国際小学校)
治部先生(大阪教育大学附属高校池田校舎)
小学生プレゼンチームでは、「持続可能な未来をつくるための取り組み」として、自校のチャリティ・デーにヒントがあるのではないかと着目した。チャリティ・デーの目的や実施内容を改めて振り返ることで、「思いやり」「助け合い」「ものを大切にする」などといったキーワードが浮かび上がってきた。
中高生プレゼンチームでは、この準備セミナーで学びあった過程と、気づいたこと、発見したことをまとめてプレゼンすることを確認した。まず、持続可能な社会とは何かを持続し、発展していく社会なのかを共通理解したこと。そして、自分たちが通う学校の好きなど、大切など共有し、なぜ好きになるのか、なぜ大切に思うのかの理由と持続可能な社会の創造が如何につながっているのかを示すこと。さらに、普段の生活の身近な態度行動の中から、持続可能性を阻害している要因を考え、さらにはその解決に向けて大切な態度行動、考え方をまとめて示すことを確認した。
- ③ 司会班 担当：棚田先生(大阪府立長野高等学校)
「司会をするうえで意識すべきこと、注意すべきことは何か」をまず話し合った。司会の係は、会場で皆の前に立つため、その言葉や雰囲気会場全体の雰囲気に大きく影響し得る。そうした点を確認し、どんな場面であってもゲストや会場に不安を与えないように笑顔で司会を進めることなどが意見として出され、係内で共有した。また、複数の国が集まる場ということから、すべての国を尊重し、公平を期すため、言葉の選び方や国名を呼ぶ順番などに配慮すべきという意見も出た。これらの意見を踏まえ、国際フォーラム当日の司会原稿の作成に取り掛かった。

- ④ 運営班 担当：市橋先生（大阪府立松原高校）
まずはお互いを知りあうこと、話しやすい関係を作ることを意識した。その後「運営」が担うべき仕事とは何か、何が大切かを考え、そのポイントを意識した全体のタイムスケジュール確認を行った。また、各係の仕事や動きをわかっていないと運営はできないため、リサーチに行ってもらったあとに係内で共有しあい、具体的なシチュエーションでどの係とどのような動きをすべきかを考えた。
- ⑤ PC班 担当：峯川先生（奈良県立山辺高等学校）
最初はお互いに緊張していたメンバーも、自己紹介を通じて打ち解け、PC班としての目標設定に真剣に取り組んだ。議論の末、私たちは「誰もが安心して発表できる場を作る」という共通のゴールを見出した。参加者全員が英語を第二言語として使用している点に着目し、ただ機材を操作するだけでなく、非母語話者同士が円滑にコミュニケーションを取るための工夫を重視した。正確なスライド操作に加え、視覚的な支援を通じてディスカッションをより豊かにするための準備を整えることを直近の目標にした。
- ⑥ 写録班 担当：畠山先生（大阪教育大学附属高校池田校舎）
写録班は、2014年の記録を参考にしながら、どのような場面が後世に価値を持つかを考えた。準備段階から当日までの一瞬一瞬に目を向け、「想い」や「空気感」が伝わる記録とは何かについて意見を共有した。記録する対象やタイミングを具体的にイメージし、歴史をつなぐ視点を意識して撮影計画を立てた。
- ⑦ 受付案内班 担当：浅見先生（奈良県立法隆寺国際高校）向井先生（大阪府立佐野高校）
受付の仕事内容について、大学生の先輩の体験談を参考にしながら確認し、歓迎の気持ちや伝えられる工夫について意見を出し合った。オツキーズと仕事内容をすりあわせた後どのような看板や名札を作成するかについて話し合った。暖色系にしよう、Welcomeボードを作ろう、名札は手書きで国旗もつけよう、ペーパーフラワーを飾ろう、などの意見が出た。
- ⑧ 環境創造・装飾班 担当：池田先生（関西創価中学校）木村先生（府立富田林高校）
メンバーで集まり、自己紹介の後、どんな内容で装飾を創っていくかの方向性についてブレーストーミングを行った。「日本的なもの」「参加各国の文化を取り入れたもの」の両方を準備していくこととなった。
- ⑨ オツキーズ班 担当：松本先生（奈良県立国際高校）
オツキーズとは、海外からのゲストに寄り添い、困りごとがないようにサポートする係である。希望した児童・生徒と、オツキーズとしてどのような場面でどんなことに気をつけるべきか、どんなことに配慮すべきか、などについて考えた。「スケジュールを理解しておく」「常に笑顔」「おもてなしをする」「困ったときにも顔に出さず、臨機応変に対応する」などの意見が出た。また、チーフ・サブチーフを決定し、2人は全体を見渡し、それぞれのオツキーズは何か問題が起こればチーフに連絡すること、などの確認をした。

国際フォーラム[研修 B]

第 5 回準備セミナー 12 月 14 日(日) 9:30-12:30 (大阪府立住吉高等学校 北畠会館)

時間	内容	備考										
09:00	◆受付開始【向井/受付案内生徒??】	※各校児童・生徒・ 教員は名札を着用										
09:30 09:40	◆開会宣言【棚田】 ◆ESD 劇団【大学生と教員】 ◆国際フォーラム係別 〈計画内容〉 ・国際フォーラム最終日までの計画を立てる ・係間の連携について 【係一覧】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">2F 会議室</td> <td>議長団・プレゼン班</td> </tr> <tr> <td>1F ロビー</td> <td>司会・運営班</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">1F ホール</td> <td>PC 班</td> </tr> <tr> <td>写真記録(シャーロック)班</td> </tr> <tr> <td>オツキーズ班</td> </tr> <tr> <td>受付案内班</td> </tr> <tr> <td>環境創造/工房班</td> </tr> </table> ◆ホームステイ受け入れ生徒 7 名 召集・説明【向井/畠山】	2F 会議室	議長団・プレゼン班	1F ロビー	司会・運営班	1F ホール	PC 班	写真記録(シャーロック)班	オツキーズ班	受付案内班	環境創造/工房班	〈ESD キーワード〉 ・「あいさつ」は平和 の第一歩 ・100 年後の地球も 1 分後の教室も同じ未 来。だからゴミは持 ち帰り。 ・「ありがとう」「拍 手」は尊重の証 ・「笑顔」はあなたの 豊かさの発揮
2F 会議室	議長団・プレゼン班											
1F ロビー	司会・運営班											
1F ホール	PC 班											
	写真記録(シャーロック)班											
	オツキーズ班											
	受付案内班											
	環境創造/工房班											
11:45 12:00 12:15	◆進捗状況報告・各係へのお願い依頼など ◆アンケート実施【竹村颯馬】 ◆撤収開始											
12:30	◆1/10 スタディツアー(奈良) PT【原條】@1F ロビー ◆コーディネーター会議@1F ホール											

第5回 準備セミナー(協働準備会)の成果 (教員アンケートより)

Q :それぞれ係で行ったこと(進捗)や気づいたこと、生徒の変容についてお書きください。

- ① 議長団 担当：竹村(紗)先生(帝塚山学院高校教員) 原條先生(奈良育英高校)
- ディスカッション A「持続可能性を阻害するもの」、ディスカッション B「持続可能性のために大切にすべきもの」を進めるにあたり、どのような進行をすべきかを話し合った。前回話し合った、議長団としての言葉選びや質問の仕方を再確認しながら、模造紙に、「○○のような意見が出たら、△△のように返す」「●●のような質問が出たら、□□のように確認する」などと記載した付箋を貼り、さまざまなパターンを想定した進め方を視覚的に分かる形にまとめた。
- また、ディスカッション C「私たちは未来のために何を学び行動すべきか」に記載のある「未来」について、漠然とした「未来」を指すのではなく、今回の国際フォーラムに参加するすべての人が、共通でイメージできる「未来」をディスカッションの中で示していくべきではないかという考えから、まずは議長団のメンバーが自分自身の意見を

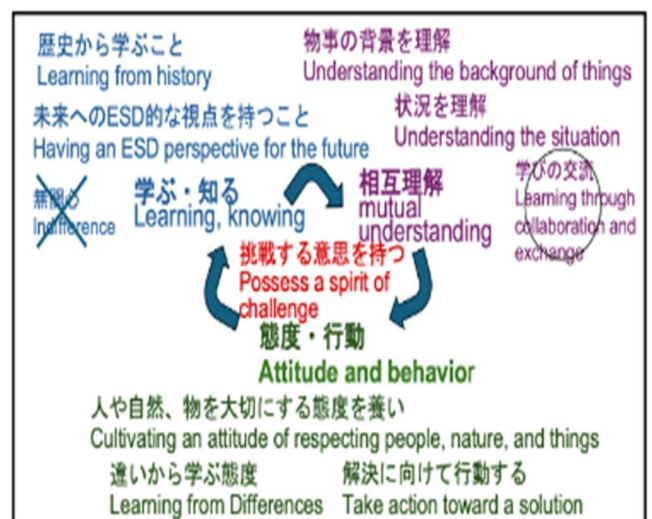
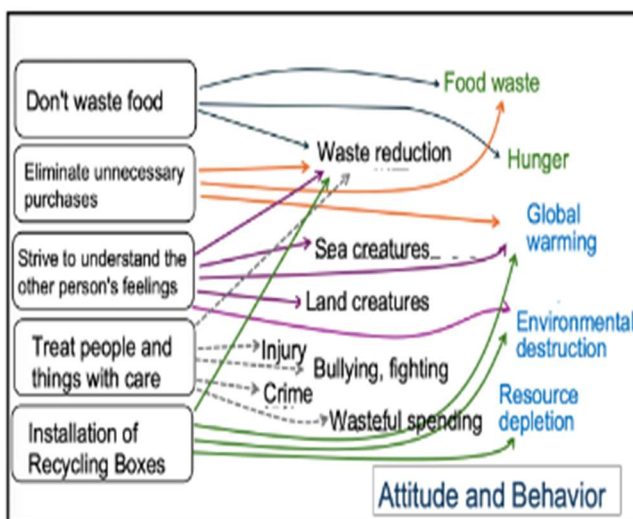
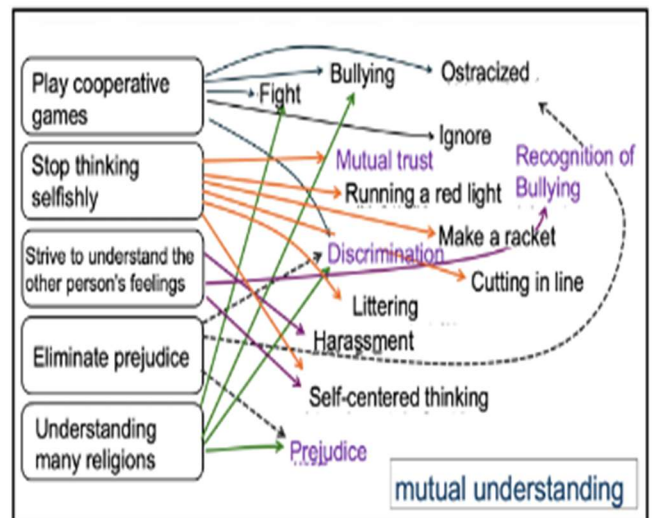
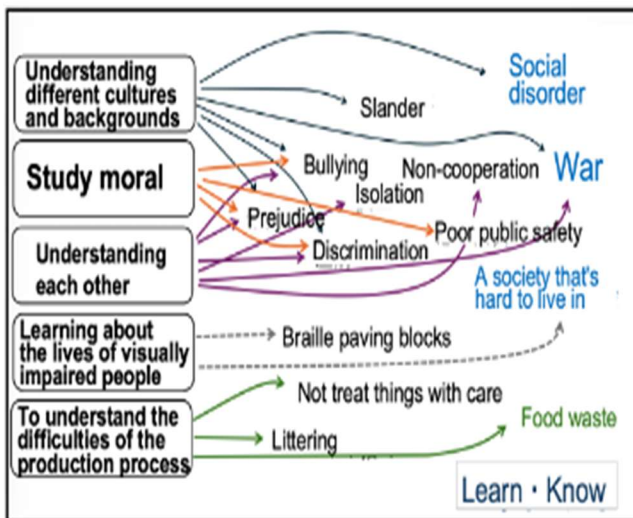
共有した。学齢が異なるメンバーで構成されている議長団だが、それぞれの意見を尊重し、分からないことがあれば丁寧に質問し、ともにイメージする「未来」を模索することができた。ここで行った意見共有の仕方が、国際フォーラムのディスカッションで行われる形であることを実際に体感することができた。

② プレゼン班 担当：蒲生先生（アサンプション国際小学校）

治部先生（大阪教育大学附属高校池田校舎）

小学生プレゼンチームは、導き出された3つのキーワードをもとに、自校のチャリティ・デーでの取り組みがSDGs（持続可能な開発目標）とどのように関連しているかを考察した。その結果、SDGsの目標である「貧困をなくそう」や「つくる責任 つかう責任」などとの明確な結びつきを見出し、自分たちの活動が社会貢献に繋がっていることを再認識するに至った。

中高生プレゼンチームでは、準備セミナーで共通理解した「持続可能な社会とは何が持続し、発展していく社会なのか」と、準備セミナーで出しあった「私たちの身近な生活の中に潜む持続可能性阻害要因」を関連づけて理解しようとした。さらに準備セミナーで話し合った「持続可能性を阻害する要因の解決に向けて私たちが取るべき態度、行



動」をグループ分けして理解し、プレゼン資料としてまとめた。

- ③ 司会班 担当：棚田先生（大阪府立長野高等学校）
第4回準備セミナーで確認・共有した司会が意識すべきこと、つまり「笑顔、各国の尊重、公平性」などの観点を再確認した後、国際フォーラムのスケジュールに沿って司会原稿を作成した。特に国際フォーラム1日目は会場全体の緊張が予想されたため、「各国ゲストに歓迎を伝え、会場に緊張を与えず、かつあたたかい空気を作り出すにはどのように司会を進めるべきか」を話し合いながら原稿を作成した。小学生・高校生双方から様々な提案や意見があり、係のリーダーとなった生徒を中心に、児童・生徒同士でそれらの意見を取り入れながら原稿を作成した。児童・生徒同士で互いの意見を尊重し、学び合いながら、よりよい会場進行を考えていく様子が見られた。
- ④ 運営班 担当：市橋先生（大阪府立松原高校）
タイムスケジュールを確認しながら、その時々での自分たちがすべきことや、疑問、もう少し詰めておきたいことなど、意見の出し合いを行った。また、当日に使用する無線の使い方、使用できる距離の確認や伝達方法のコツなども確認した。タイムスケジュールの調整練習をするために、各係のチーフを集めた係会議を計画・実施し、困りごとや細かい確認、進捗状況などを共有しあった。
- ⑤ PC班 担当：峯川先生（奈良県立山辺高等学校）
海外参加者に向けた日本側のスタッフ紹介映像の制作に着手した。日本各地から運営に携わる学校の数や、スタッフ一人ひとりの表情を伝えるため、各校から募った紹介動画を一本の作品へと編集する作業を行った。
当初は動画編集という不慣れな作業に戸惑う場面も見られたが、最終的には編集スキルの向上が顕著に現れた。単なる素材の結合に留まらず、テロップの挿入や場面転換のタイミングなど、視聴者への伝わりやすさを考慮した独自の工夫が随所に凝らされるようになった。その熱意は対面での準備セミナーにとどまらず、メンバー自らが自宅での作業を志願するほどであった。各自が責任感を持って家庭でも編集を継続した結果、PC班一丸となって完成度の高い映像を作り上げることができた。
- ⑥ 写録班 担当：畠山先生（大阪教育大学附属高校池田校舎）
国際会議のエンディングで上映する動画の制作を見据え、各係の活動や生徒同士の関わりの変化を意識して記録を行った。単なる記録にとどまらず、「どの瞬間が全体の物語を伝えるか」を考えながら撮影に取り組む姿勢が見られた。振り返りを通して、当日の感動を最大化するための構成や必要なカットについても具体的に検討した。
- ⑦ 受付案内班 担当：浅見先生（奈良県立法隆寺国際高校）
向井先生（大阪府立佐野高校校）
名札班と、Welcomeボードと案内板の班に分かれ、それぞれで話合って作成にとりかかった。名札にはゲストの名前と国旗などを入れ、手書きにすることで気持ちを込めて作成した。道案内の矢印やWelcomeボードの大きさを決め、彩りを考えながら手分けして制作をした。装飾等は次回に行くこととなった。
- ⑧ 環境創造・装飾班 担当：池田先生（関西創価中学校）木村先生（府立富田林高校）
参加メンバーで話し合い、担当する国を決定。折り紙を使って、各国控室に飾る装飾

の製作を開始する。追加となった、オープニングアクトを飾る幼稚園児への記念品については、有志が持ち帰って作製することを決定。

⑨ オツキーズ 担当：松本先生（奈良県立法隆寺国際高校）

各国ゲストの係を決定した。それぞれの国のゲスト4人から5人が係として担当することになった。2日間のスケジュールを全員で確認し、時間ごとに役割分担をした。また、どの場面でどのようなことが予測されるか、どのような準備をしておく必要があるかをみんなイメージし、確認をした。例えば、会場への入場の際にはどのような声掛けをするか、ディスカッションの時にはゲストからどの位置に着席し、どう声掛けをするか、中座する際には必ずついていく、どうチーフに伝え、チーフは運営に伝える、などの動線をイメージし、全体共有した。児童・生徒はさまざまな場面を想定し、自分たちができるサポートや声かけについて話し合った。

②-(2) 研修(A)(B)の成果による国際フォーラム運営の「リハーサル」

国際フォーラム[研修A・Bの統合]

第7回準備セミナー 12月26日(金) 9:00-12:30

<リハーサル(1回目)>

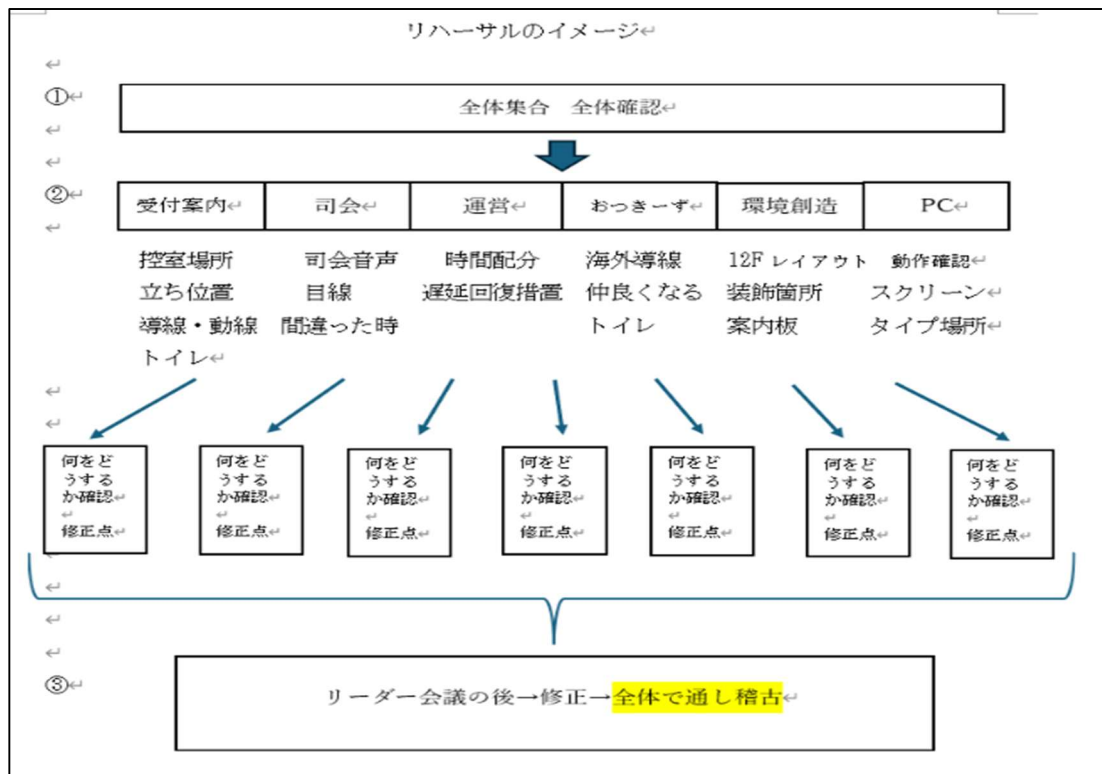
(大阪公立大学 森之宮キャンパス)

※第6回準備セミナーは必要な係のみのオンラインミーティングのため省略

時間	内容	備考														
08:30	◆受付開始【向井/受付案内生徒??】@1Fロビー →3F講堂まで階段を使用してもらうよう案内 ◆富田林市立富田林幼稚園 園長代理飯國先生対応【伊井】	※各校児童・生徒・ 教員は名札を着用														
09:00	◆開会宣言【棚田】@3F講堂 ◆挨拶【畠山】 ◆ESD劇団【大学生と高校生と教員】	<キーワード> <ESDキーワード>														
09:10	◆国際フォーラム係別	・「“一生懸命”を笑う人はいない」 ・「どうせ、だる〜」は、あなたの可能性を奪う言葉。 ・わからない/教えては黄金を生みだす。 ・サポートの連鎖														
	<table border="1"> <tr> <td>314</td> <td>議長団</td> </tr> <tr> <td></td> <td>プレゼン</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">講堂</td> <td>司会</td> </tr> <tr> <td>オツキーズ</td> </tr> <tr> <td>受付案内</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">フューチャールーム</td> <td>PC</td> </tr> <tr> <td>運営</td> </tr> <tr> <td>環境創造/工房</td> </tr> <tr> <td></td> <td>写真記録 (シャーロック)</td> </tr> </table>	314	議長団		プレゼン	講堂	司会	オツキーズ	受付案内	フューチャールーム	PC	運営	環境創造/工房		写真記録 (シャーロック)	
314	議長団															
	プレゼン															
講堂	司会															
	オツキーズ															
	受付案内															
フューチャールーム	PC															
	運営															
	環境創造/工房															
	写真記録 (シャーロック)															
	◆12Fスカイラウンジの設営(スクリーン/プロジェクター設置 ◆会場レイアウト)など、実際に活動する場所に移動し、各係	※オツキーズ： 【畠山】 【三好】														

	でシミュレーションを行う。 ◆チーフ・サブチーフ会議@フューチャールーム【市橋】	
10:20	◆3F 講堂に全員集合	
10:30 11:00 11:10	◆プレゼンテーション開始 (ゲスト入場から開始・プレゼンは ASPnet OSASKA 2 チームのみ) ・ゲスト役：韓国 【森田】 リトアニア 【山下】 タイ 【田村】 フィリピン 【伊井】 ◆12F スカイラウンジへ移動 ◆ディスカッション開始 ・ゲスト役：韓国 【森田】 リトアニア 【山下】 タイ 【田村】 フィリピン 【伊井】	※ゲスト役はゼッケン（附属池田）を着用 →何かハプニングを起こす ※ゲスト役はゼッケン（附属池田）を着用 →何かハプニングを起こす
11:45 12:00	◆アンケート実施【竹村（颯）】 ◆次回予告・終了宣言 ◆撤収開始 12F スカイラウンジ → 3F で使用した部屋	※1/11、12 お弁当持参 ※通訳さんは便利屋ではない。
12:30	◆完全撤収	

リハーサルの構造



第7回 準備セミナー(協働準備会)の成果 (教員アンケートより)

Q :それぞれ係で行ったこと(進捗)や気づいたこと、生徒の変容についてお書きください。

- ① 議長団 担当 竹村(紗)先生・原條先生
前回想定した進め方をもとに作成した進行原稿の最終確認を行い、それぞれ担う役割の動きを再確認した。まずは想定したもので進行を試みることを意識し、実際にディスカッションをして見えてきた課題や問題点を挙げていくことを目標とした。
- ② プレゼン班 担当：蒲生先生・治部先生
小学生プレゼンチームは、当初、通訳に要する時間を十分に想定できておらず、現状の構成のままでは発表時間が大幅に超過することが判明した。そこで改めて発表内容を見直し、原稿を再構成する過程を経て、チームとして最も伝えたい要点へと焦点を明確に絞り込むことができた。
中高生のプレゼンチームではプレゼン資料の英語訳と説明文の図式化をおこない、一度完成したものを全体の前で発表した。初めての発表で、うまく説明できないところ、矛盾のある図での説明、英語訳の不備など多くの課題を発見することができた。
- ③ 司会班 担当：棚田先生
原稿の最終確認を行った後、実際の会場でステージに立ち、運営やオツキーズなどの他の係とタイミングなどの確認をしながらリハーサルを行った。想定と異なる事態が発生した場合の対応や言葉の選び方について考え、互いに相談しながら、司会の児童・生徒間でも連携を深めていた。常に司会が意識すべきことを念頭に置きながら、臨機応変に動こうとする姿勢が見られた。
- ④ 運営班 担当：市橋先生
実際に使用する会場や部屋を全て確認し、本部設置位置の検討や当日のそれぞれの立ち位置や役割分担を決めた。その後、当日に向けた情報収集に努め、会場レイアウトや司会原稿をもとに運営として足りない部分を確認し、当日にすべての係がどのような動きをしていくのかをシミュレーション確認、トラブルシューティングをできる限り行った。前回同様係チーフ会議を行い、情報共有・問題解決に努めた。
- ⑤ PC班 担当：峯川先生
リハーサル段階では、海外参加者からの最終的なプレゼンテーション資料が未着であったため、代替のスライドを用いて投影シミュレーションを実施した。これにより、解像度や映像出力の安定性を精査し、技術的な懸念事項を洗い出した。
また、本番の会場が2部屋に分かれるという物理的な制約に対し、当日の設営を最短時間で完了させるための「To-do リスト」を作成した。各部屋での配線、機材配置、予備機材の確保といった細かなタスクを整理し、メンバー間での役割分担を徹底した。不測の事態にも柔軟に対応できるよう、各自が自分の持ち場だけでなく、班全体の動線を意識した高度な連携体制を整える貴重な機会となった。
- ⑥ 写録班 担当：畠山先生
リハーサルにおいて、各係の動きや会場全体の流れを実際に撮影し、本番を想定した記録の取り方を確認した。想定と異なる動きや場面の变化に直面し、どのタイミングで

何を記録すべきかについて具体的な課題が明らかになった。エンディング動画を見据え、残すべき場面や必要なカットについて班内で共有した。

⑦ 受付案内班 担当：浅見先生・向井先生

実際に受付をする場所を確認し、会場周辺のどのあたりに道案内で立つべきかを下見した。フラワーペーパーをたくさん作り、少しでも華やかに迎えられるように気持ちをひとつにして制作した。

⑧ 環境・装飾班 担当：池田先生・木村先生

各国控室となる教室および、全体会議の会場となるスカイラウンジの下見を行う。具体的な机の配置や、必要となる追加の装飾物について計画を立案。メンバーたちは実際の会場を見ることで、具体的なイメージが掴めてきたようだ。

⑨ オツキーズ班 担当：松本先生

リハーサルでは自分たちが準備していたこと以上にさらに準備していくことが見えた。ゲストの役を担う人が自分たちの予想をしていたこととは異なる動きをした場合、どのように行動すべきか、臨機応変さが求められる場面で動けるか、などを試していただき、反省と準備をした。ゲストが退室している時の運営係との連携などについても再度調整を行った。

国際フォーラム[研修 A・B の統合]

第 8 回 準備セミナー 2026 年 1 月 6 日 9:00~12:30

<リハーサル(2 回目)>

(大阪教育大学 天王寺キャンパス)

Q: 本日のリハーサルで、それぞれ係で行ったことや気づいたこと、生徒の変容についてお書きください。

① 議長団 担当：竹村（紗）先生・原條先生

リハーサル 2 回目では、前回あまり意識できなかった他の係との連携についても、熱心に取り組む姿が見られるようになった。司会からバトンタッチされるタイミングの確認、PC 班との翻訳画面や、ディスカッションのテーマや質問事項を記載したパワーポイントデータの受け渡しの確認、公平性を確認する挙手回数を記載したメモを議長にどう渡すかの確認など、細かな動きの確認と連携を図った。少しずつだが、着実にディスカッションの全体イメージが掴めてきている様子



が見受けられた。

② プレゼン班 担当：蒲生先生・治部先生

小学生プレゼンチームでは、前回課題として挙げた「通訳のための時間確保（適切な間の取り方）」に重点を置いて練習を実施した。その過程において、各国の通訳が完了したか否かを自身の目で確認することの重要性に児童自らが気づき、発表時の目線の配り方を意識して進行できるまでに成長した。

中高生プレゼンチームでは前回見つけた課題を見直し、全体発表を行った。プレゼン時間の超過や更なる英語訳の誤記など見付き、最終発表資料の作成へとつなげた。またこの第2回のリハーサルでのさらなる改良をおこなったのち、プレゼンチームのみでオンラインによる会議と発表練習をおこなって本番に備えた。



③ 司会班 担当：棚田先生

1回目のリハーサルに続き、実際の会場で、他の係とタイミングなどの確認をしながらリハーサルを行った。ディスカッションなど、司会の係が全体進行を担当しない場合にどのような姿勢で参加すべきか考え、全体の進行が議長団と切り替わる際の円滑なバトンタッチなどについて確認を行った。



④ 運営班 担当：市橋先生

実際に使用する会場や部屋を全て確認し、本部設置位置の検討や当日のそれぞれの立ち位置や役割分担を決め、トラブルシューティングをできる限り行った。模擬ディスカッションなどで見えてきた課題を元に自分たちがすべき仕事を再確認し、当日に向けた意識向上を行うことができた。前回同様係チーフ会議を行い、情報共有・問題解決に努めた。



⑤ PC班 担当：峯川先生

2日目に使用する会場にて最終リハーサルを実施した。この段階で各国から提出された正式なスライドデータが揃ったため、各スライドのレイアウト崩れがないか、動画やアニメーションが意図通りに機能するかを精査し、投影の最適化を図った。

さらに、プログラム全体の進行表と照らし合わせながら、PC班としての動きを再検証した。使用するケーブル類や変換アダプタ、周辺機器の不足がないか、また機材の不具合が生じる可能性はないかといった「ゼロベース」での機材チェックを徹底した。メンバー一人ひとりが、自分たちの操作一つがイベントの成否を分けるという責任感を共有し、万全の態勢で本番を迎えられるよう細部まで余念のない準備を完遂した。



⑥ 写録班 担当：畠山先生

2 回目のリハーサルでは、各係との連携を意識しながら、場面ごとの記録の取り方を確認した。進行の流れや役割の切り替わりの中で、どの瞬間を記録する必要があるかを具体的に整理することができた。前回の記録を踏まえ、当日のエンディング動画に向けて残すべき場面の共有と見直しを行った。



⑦ 受付案内班 担当：浅見先生・向井先生

実際に受付をする場所を確認し、会場周辺のどのあたりに道案内で立つべきかを下見した。ゲストをお迎えするために名札を作成し、スムーズにご案内できるようシミュレーションを行った。最終段階ではスケジュールを読み合わせし、当日の流れを確認した。オツキーズとの連携が非常に重要であるため、オツキーズとゲストの引き渡しについて確認をした。また、受付の装飾を完成させ、当日まで各自しなければならぬことを確認し当日持ち寄ることとした。



⑧ 環境・装飾班 担当：池田先生

各国担当から、進捗状況を全体に共有。当日の動きについて、進行表をもとに全体で確認した。



⑨ オツキーズ 担当：松本先生

オツキーズの係の人数変更等があり、再度担当の国や係を調整した。細かいスケジュールを全員で見直し、前回のリハーサルでの失敗の振り返りをおこなった。入場の場面での並び方、どのような声かけをするか、何を準備しておくべきか（英語やゲストの話す言語での挨拶や簡単な声かけなどもふくめ）の案を出し合い、次回までに準備しておくように確認した。環境の係と、プレゼンやディスカッションでの座る位置などについても相談することができた。



第Ⅲ章

第Ⅲ章は、第Ⅱ章で示した準備段階を経て、国際フォーラムのプレ・プログラムとして実施した 5 か国生徒による奈良世界遺産スタディツアーの報告、ならびに国際フォーラム当日の様子について報告する。

なお、大阪関西ユネスコスクールネットワークの加盟校はこれまでも同様にプログラムを開催し、異なる学校の生徒が力を合わせて異なる国々の生徒と共に協働の学びあいをしてきた。今度も異なる背景の視点を大切に、かつそれらを尊重して学びを広げることに至った。

(海外からの参加校<いずれも ASPnet 校>)

韓 国	： <清州市> 上黨高等学校(サンダン高校) (教員 1 名、生徒 2 名)
フィリピン	： <マニラ> Philippine Normal University CENTER FOR TEACHING & LEARNING (フィリピン教育大学附属中等学校)(校長、大学生1名、高校生 1 名)
タイ	： <アユタヤ> The Demonstration School of Thepsatri Rajabhat University (テープサトリ総合大学附属高校)(校長、教員、高校生 2 名)
リトアニア	： <ビリニュス> Vilnius Žemyna gymnasium (ジャミナ高校)(校長、高校生 2 名)
合計 教員 5 名、生徒・学生 8 名	

③ 「研修(A)・(B)」の成果を踏まえた「(海外参加者)奈良世界遺産スタディツアー」実施

奈良スタディツアー 担当：原條先生（奈良育英高校）、松本先生（奈良県立法隆寺国際）

生徒有志メンバーによる奈良世界遺産(古都奈良の文化財)スタディツアーの案内を実施した。案内の際には、賑わいのある観光地であっても、奈良の文化財をしっかりと紹介できるようにスケッチブックも活用した。スケッチブックの内容構成は生徒の各担当グループに一任したところ、紹介文がゲスト生徒の母語で書かれていたり、クイズを出していたりする等、ゲストに対するホスピタリティが感じられる内容であった。

1300年の長きにわたり継承される文化の保全と交流、自然環境との共存等、奈良の文化を余すことなく紹介できた。



生徒がタイとフィリピンの先生へ説明している風景

食事風景

国際フォーラム会場の設営にあたる生徒たち ↓



④ 国際フォーラム開催 2026年1月11(第1日目)・12日(第2日目)

全ての準備を整え、開会式を下記のプログラムにて開催された。

UNESCO ASPnet
アジア・北欧5か国中高生による ESD/SDGs 国際フォーラム



大阪・関西ユネスコスクールネットワーク創基20年記念/
ユネスコスクール世界大会10周年記念 & new 1
大阪公立大学 森之宮キャンパス開設記念イベント

UNESCO
Japanese National Commission
日本ユネスコ国内委員会

75 YEARS OF JAPAN IN UNESCO

UNESCO ASPnet
Asia-Northern Europe(5Countries)
ESD/SDGs International Youth Forum

UNESCO
Member of the Associated Schools Network

主催 大阪公立大学／大阪・関西ユネスコスクール (ASPnet)ネットワーク
大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉研究センター
後援 日本ユネスコ国内委員会
大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・兵庫県教育委員会・奈良県教育委員会
協賛 公益財団法人 森村豊明会

ASPnet OSAKA



大阪公立大学 講堂

プログラム

(1日目 (1月11日) 午前の部 プログラム)

会場 大阪公立大学 森之宮キャンパス

1. 開会式 (10:00～) :

- ・ 開会宣言
- ・ 海外参加者入場
- ・ 支援大学 大阪公立大学学長 櫻木弘之 氏 挨拶
- ・ UNESCO ASPnet ナショナルコーディネーター
文部科学省国際統括官補佐 生田目裕美 氏 挨拶 (代読)
- ・ 大阪関西ユネスコスクールネットワーク代表
大阪府立佐野高等学校校長 河合克昭氏 挨拶
- ・ ユネスコスクール 富田林幼稚園園児による **ESD** パフォーマンス

2. 各国からのプレゼン (10:40～)

テーマ「未来の社会を創る私たちが考えるべきこと、やるべきこと」

(プレゼン順)

- ① 韓 国
“We are The One Global Community !”
- ② リトアニア
“Sustainable Development Goals and Prospects at Vilnius”
- ③ タ イ
“Our Thoughts and Actions to Create Our Sustainable Future” Society
- ④ フィリピン
“Towards a Youth-Led Sustainable Philippines – A PNUAN CASE STUDY”
- ⑤ 日本 (中高校生)
“ESD とわたしたち – 大阪 ASPnet を通した学びあいから –”
- ⑥ 日本 (小学生)
“持続可能な未来をつくるために、私たちができること”

(1日目 (1月11日) 午後の部 プログラム)

3. ディスカッション A (13:30～)

テーマ「持続可能性を阻害する要因について」

アジア・欧州 UNESCO ASPnet 国際フォーラム 開会挨拶（和文）

2026年1月11日

大阪公立大学学長 櫻木弘之

皆様、おはようございます。ようこそ大阪公立大学へ。学長の櫻木弘之です。

本日は、「アジア・欧州 UNESCO ASPnet 国際フォーラム」の開会にあたり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。この伝統ある国際フォーラムが、本日と明日、大阪で開催されますことを心より歓迎いたします。初日の会場として、本学・森之宮キャンパスで皆さんをお迎えできることを、大変光栄に思います。

はじめに、本フォーラムの開会にあたり中心となってご尽力いただいております大阪・関西 UNESCO スクール (ASP) ネットワークの皆様へ、心より御礼申し上げます。また、ご後援をいただいております文部科学省・日本ユネスコ国内委員会、ならびに大阪府・大阪市・奈良県・兵庫県の各教育委員会の皆様にも、厚く御礼申し上げます。

さて今回、日本、韓国、フィリピン、タイ、そしてヨーロッパのリトアニアから、UNESCO ASPnet に参加する高校生の皆さんがここ大阪に集いました。皆さんは「持続可能な社会」をテーマに、高校生の視点で考え、語り合い、未来社会を創るために自分たちは主体的にどう行動すべきかを探り、その成果を共同宣言として世界に発信することを目指します。たいへん意義深い取り組みであり、私は皆さんの意欲をとても頼もしく感じています。

SDGs が掲げる「誰一人取り残さない」という理念——みなが目指す未来に希望を持って生きていける社会を共に創るという願いは、本学が大切にしている方向性とも重なります。大阪公立大学は大学憲章の精神のもと、人権・自由・平等・平和を尊重し、人類の平和と社会の持続的な発展、そして国際社会の発展に寄与することを掲げています。

そして 2011 年以来、UNESCO ASPnet 校の支援大学として、国内外の若者が学び合い、課題を共有し、対話を通じて未来を考える交流活動を応援してきました。

このフォーラムでも、異なる文化や背景をもつ仲間と、ぜひ率直に意見を交わし、互いに学び合ってください。そこで得た気づきは、皆さん一人ひとりが今後の生き方や将来のビジョンを考えるうえで、必ず力になるはずです。そして、ここでの学びを、まずは身近なところから一歩として実践してみてください。その一つひとつの積み重ねが、皆さんの社会を明るく照らす希望の灯となり、その灯が広がって、持続可能な未来を共に創っていく力になると、私は信じています。

今日と明日のフォーラムが、皆さんにとって実り多い経験となることを願い、開会の挨拶といたします。ありがとうございました。

ご挨拶

ASPnet ナショナルコーディネーター

文部科学省国際統括官補佐 生田目裕美

本日は「2025 年度大阪・関西 ASPnet 学び合い アジア・北欧 ASPnet 国際フォーラム」の開催、誠におめでとうございます。

韓国、リトアニア、フィリピン、タイ王国（※）の ASPnet の皆様、ようこそ日本にお越しくださいました。心より歓迎申し上げます。

ASPnet は、ユネスコの理念を学校現場で具体的に実践するための国際的なネットワークであり、加盟校同士が活発に交流し、生徒や教員が互いの経験や知見を共有しながら、地球規模の問題にどのように向き合い、解決していくかを共に考えることが目指されています。

本フォーラムは、各国、各学校が取り組む課題や取り組みを共有し、持続可能で平和な社会を実現するためにできることを話し合う貴重な場であると同っています。2 日間にわたり多彩で充実したプログラムが準備されており、その成果が共同宣言としてまとめられると承知しています。国境を越え集まった参加者の皆様が互いに学び合い、新たな連携を生み出す実り多い時間となることを確信しています。

本日の開催に至るまで、綿密な準備を進めてこられた大阪公立大学並びに大阪・関西ユネスコスクールネットワークの皆様、関わられている多くの先生方、生徒の皆様のご尽力に深く敬意を表し、心より感謝申し上げます。

本フォーラムの成功と、皆様の今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。

大阪関西ユネスコスクールネットワーク代表 河合克昭

皆さま、こんにちは。

ようこそ大阪へいらっしゃいました。心から歓迎申し上げます。

ここ大阪は、古くから商業の街として栄え、かつては日本の政治の中心でもありました。現在は、人口約880万人を要する日本第2の大都市として西日本の政治・経済を牽引しています。

この度は、この国際フォーラムに韓国、リトアニア、フィリピン、タイ及び関西各地からESDに取り組んでおられる学生の皆様にお集まりいただき、このように盛大にフォーラムを開催できますことに心から感謝申し上げます。

さて、近年、世界では「自国優先主義」とも言われる自国の繁栄を最優先する動きが顕著化しつつあり、軍事進攻をはじめ大きな国際紛争が多発してきております。そのような状況の中で国の内外で分断が生まれ、また、各種の国際的な取り決めが守られず、人類をはじめ多様な生物や母なる地球そのものの存続さえ心配される状況になりつつあります。

私たちユネスコスクールのメンバーは、「Think globally, act locally.」の名のもと、持続可能な社会の実現に向け、世界が協調し様々な問題解決に挑戦する姿勢を学んでいます。今回のこのフォーラムで他国の若者の取組みに触れ、また相互のコミュニケーションの中でお互いが刺激し合い、これからの世界の盛衰を担う皆さんの今後の更なる挑戦に繋がることを期待しています。

最後になりましたが、このフォーラムの開催にあたり会場を提供いただきました大阪公立大学様はじめ、ご尽力いただきましたすべての方々に感謝申し上げます。開会の挨拶といたします。ありがとうございました。

開会式での「ユネスコスクール 富田林幼稚園園児によるESDパフォーマンス」

オープニングでは、富田林幼稚園の園児によるESDパフォーマンスが披露された。演目は「いのちのつながり」と「未来への希望」をテーマとした楽曲であり、持続可能な社会の実現を掲げる本フォーラムの趣旨と強く合致する内容であった。パフォーマンスの途中では、会場のゲストが壇上に招かれ、園児とともに手をつないで歌う場面が設けられた。楽曲の歌詞には「みらいの友達」という言葉が用いられており、今日初めて出会った人々が手を取り合い、共に歌うことで新たなつながりが生まれる様子が象徴的に表現されていた。このパフォーマンスは、国や立場を越えた人々のつながりを体感させるものであり、本フォーラムのテーマである持続可能な社会の実現に向けた協働の重要性を印象的に示すオープニングとなった。

園児による「きときとキセキ」



各国からのプレゼンテーション（概要）

・韓国

世界で起こっている紛争・内戦などにより多くの難民が発生している。例えばシリア内戦による多くの難民が発生し、またイエメン内戦の難民も発生している。シリア難民はヨーロッパへ移動し各国が受け入れた。イエメンからの難民は韓国のチェジュ島（済州島）でも多く受け入れている。もともと済州島はビザなしで入国できる島であり、イエメンからの難民は「人道的在留許可」の資格を得て韓国で暮らしている。一方で、世界では外国人排斥や歴史的に今もホロコーストが起こったりしている。しかし、現代は、多文化の共生が大切であり求められている。地域や学校、そして個々の中でそれを実現することが私たちの役割。そして、社会の持続可能性だ。



・リトアニア

リトアニアの Vilniaus Žemynos Gymnasium では、「Sustainable Development Goals (SDGs) と今後の展望」をテーマに発表が行われた。Vilniaus Žemynos Gymnasium では、生徒が安全で快適な環境の中で学び、感情的・知的・文化的に成熟しようとする創造的な人格を育むことを教育の基本理念としている。この理念に基づき、学校では生徒が主体的に行動し、地域や社会との協働を通じて持続可能な社会に貢献できる能力を育成することを重視している。そこでは、生徒の多面的な能力育成のために多様な学習プログラムが実施されている。具体的には、Cambridge International Education の授業や STEAM クラス、英語と美術を融合した授業、演劇とリトアニア文学を組み合わせた授業、歴史とリトアニア文学の統合授業、数学と情報技術 (IT) の融合授業、物理と情報技術の融合授業など、多分野にわたる学習機会が提供されている。これらのプログラムは、生徒が創造的思考やクリティカルシンキング、問題解決能力を身につけることを目的としており、学校の教育理念である「安全で快適な環境の中で創造的な人格を育む」という方針と密接に関連している。多様な科目の統合学習を通じて、生徒は感情的・知的・文化的成熟を促し、持続可能な社会に貢献できる力を養っているのである。発表では、学校教育を通じて SDGs の達成に貢献する取り組みが紹介された。特に、生徒自身が主体となり、地域社会や学校内での持続可能な活動を企画・実施している点が強調された。具体的には、環境保護や公平な教育の機会の確保、



地域社会への参加と協働を通じて、持続可能な社会の実現に向けた具体的な行動が行われていることが示された。また、こうした活動を通して、生徒たちは SDGs に関する理解を深めるとともに、自らの行動が地域や社会にどのように影響するかを学んでいる。発

表全体を通じて、教育現場における SDGs の実践は、生徒の主体性と協働意識を育む重要な手段であり、地域や社会と連携しながら持続可能な未来を構築することの意義が明らかになったのである。

・タイ

タイからは、持続可能な未来社会の実現に向けた考え方と行動について発表が行われた。発表は、ラチャバット・テープサトリー大学附属デモンストレーションスクール (The Demonstration School of Rajabhat Thepsatri University) の取り組みを中心に紹介するものであった。

同校は、2008 年から大阪で実施されているアジア ASPnet 国際 ESD カリキュラム (Asia ASPnet International ESD Curriculum in Osaka) に参加しており、持続可能な社会づくりに関する教育活動を継続している。また、タイの教育や社会の考え方の基盤として、プミポン前国王 (ラーマ 9 世) によって提唱された「足るを知る経済 (Sufficiency Economy Philosophy : SEP)」が紹介された。この理念は、Moderation、Reasonableness、Self-Immunity を基本原則とし、さらに Knowledge、Integrity and Ethics を重視するものである。これらの考え方をもとに、持続可能な社会の実現に向けた教育が行われている。また、地域社会が抱える課題として、廃棄物問題が取り上げられた。具体的には、洪水の影響、明確なごみ分別政策の不足、過剰な廃棄物の発生などが問題として挙げられた。これらの課題に対する取り組みとして、学校ではリサイクル素材を活用した衣装コンテストを実施し、ごみ削減や再利用への意識を高めている。さらに、森林資源の保全に関する活動として、植林プロジェクトを行っているほか、地域社会への貢献活動にも取り組んでいる。加えて、学生によるマーケットの開催や、伝統的なタイの衣装文化を紹介する活動などを通して、地域文化の継承や持続可能な社会づくりへの意識を高めている。



・フィリピン

フィリピンからは、フィリピンの環境というテーマで発表が行われた。発表では、若者主導の環境問題への取り組みが紹介され、その活動が地域社会にどのように関係しているかが示された。特に、環境問題に対する意識の低さが課題として挙げられた。具体的には、使い捨てプラスチックの広範な使用や不適切な廃棄物処理の実態が問題視されている。また、持続可能な開発目標 (SDGs) に関する知識が十分に共有されておらず、多くの人々に認知されていない、あるいは誤解されている状況が指摘された。この発表を通じて、若者が中心となった地域社会での環境意識向上と教育の重要性が明らかになったのである。発表では、持続可能な未来社会を創造するために必要な三つの主要なスキルが示された。第一に、持続可能性を意識した日常の消費である。資源の適正利用や無駄を減らす行動を日常生活で実践することが求められる。第二に、持続可能な計画のためのクリティカルシンキングである。将来を見据え、物事を多角的に分析し、より良い社会の構築に向けた計

画を立てる力が重要である。第三に、地域社会への積極的な関わり（コミュニティ・エンゲージメント）である。地域の課題やニーズを理解し、協働して問題解決に取り組む姿勢が不可欠である。これら三つのスキルは、個人の行動だけでなく、社会全体の持続可能性を高めるための基盤として重要であることが示された。発表では、持続可能な未来社会の実現に向けた行動計画と、その成果についても紹介された。まず、計画策定の過程では、問題の現状把握と課題の特定を行い、目標達成のために必要な具体的なステップを設定したことが示された。次に、設定されたステップに基づき、個人や地域社会が実践すべき具体的な行動が明確化された。行動には、持続可能性を意識した日常生活の工夫や、地域コミュニティへの積極的な参加、情報や知識の共有などが含まれている。さらに、これらの行動を実際に行うことで得られた成果や学びも示された。発表を通じて、計画を立てるだけでなく、実際に行動に移すことの重要性が強調され、持続可能な社会を実現するためには、個人の取り組みと地域社会での協働が不可欠であることが確認された。



・日本高校生

日本高校生からは、「ESD と私たち (ESD and Us)」をテーマに、大阪関西 ASPnet の参加者との学び合いを通して得られた学びについて発表が行われた。発表では、まず学び合い交流会準備セミナーで互いの学校紹介を通して、自分たちの学校の「笑顔になる場所」「好きな場所」「大切な場所」を共有し、なぜそこが特別なのか理由を探す活動を行った。この活動を通して、学校生活と持続可能な社会 (ESD) とのつながりを考えるきっかけとなったことを共有した。

持続可能な社会とは、

1. 全ての命や自然のつながり
2. 豊かな心と安心できる社会
3. 人が作ってきた暮らしやすい社会や文化

であると整理された。発表では、学校で好きな場所と ESD を結びつける具体例が示された。

- 全ての命や自然とのかかわり
自然の中で癒され落ち着ける、自分を見つめられる、食欲が満たされる
- 豊かな心と安心できる社会
癒され落ち着ける、人とのつながりや交流がある
- 人が作ってきた暮らしやすい社会・文化
遊ぶことができる

つまり、持続可能な社会の創造 (ESD) は私たちの身近な生活と深くつながっていることが強調された。さらに、身近な課題に気づく力は、社会や地球規模の課題発見につながる

という学びも共有された。

さらに、ESD の学びの一環として、「持続可能性の敵 (The Barrier to Sustainability)」についても考察が行われた。持続可能な社会を阻害する問題は、**個人・地域・地球規模**の3つのレベルで整理された。

1. 個人レベルの問題

ポイ捨て、いじめ、差別、ルールやマナー違反、ながらスマホなど、日常生活の中で起こる課題。

2. 地域レベルの問題

密漁・乱獲、空気汚染、犯罪など、広い地域での社会的・環境的な課題。

3. 地球規模の問題

森林破壊、紛争、フードロス、地球温暖化など、地球全体に影響する問題。

さらに、**豊かな心や相互支援を阻害する要因**として、偏見、孤立、道徳教育の不足も挙げられた。これらの課題に対して、参加者は**解決策をグループで議論**した。

具体的には、

- 異文化や背景の理解を深める
- 道徳や倫理教育を実践する
- 個人レベルではポイ捨てをやめる、人を大切にする
などの行動が提案された。学びのプロセスは、**「学ぶ・知る → 相互理解 → 態度・行動 → 未来への意思」**というサイクルとして整理され、実践する意欲を高めるものとなった。

最後に、発表では、今回の国際交流を通して、**お互いの理解を深め、共通の態度や行動について認識を共有し、未来への約束を作ることができる**という期待が示された。

・日本小学生

日本小学生チームのタイトルは「**持続可能な未来をつくるために、私たちができること～学校のチャリティ・デーから学んだこと～**」であった。学校のチャリティ・デーを通して学んだことを報告した。チャリティ・デーは、恵まれない人たちを支援するための学校イベントで、児童・生徒・保護者がゲームや工作、食品などのブースを出店し、売り上げはすべて寄付される仕組みで運営される。子ども・先生・保護者が一体となって協力することで、学校と地域全体がつながる活動である。発表では、チャリティを行う意義として、**現状を知ること、思いやりを具体的な行動に変えることの大切さ**が強調された。小学生であっても、世界の困っている人のためにできることがあるというメッセージが伝えられた。また、チャリティ・デー活動を **SDGs の視点**で整理すると、以下のような関連性がある。

- **SDGs1「貧困をなくそう」**：寄付が困っている人々の生活を支える力になる。
- **SDGs12「つくる責任 つかう責任」**：食べ残しを減らす工夫が資源の大切さと環境保護につながる。
- **SDGs11「住み続けられるまちづくり」**：学校・家庭・地域が協力することで持続可能で安心できるコミュニティが生まれる
- **SDGs17「パートナーシップ」**：子ども・先生・保護者が立場を超えて協力することが目標達成の鍵となる活動を通して、児童たちは以下の学びを得た。

1. **協力は大きな力**：友だちと協力して物事を進め、役割分担を果たすことで達成感を

得た。

2. **楽しさと幸せ**：笑顔の連鎖や貢献の実感、自己効力感を体験した
3. **ルールを守る大切さ**：順番を守る、金銭管理、安全配慮などを学んだ
4. **食べ物の大切さ**：食品ロスを減らす工夫と、食を大切にすることが環境保護につながることを理解した

さらに、持続可能な未来とは、**思いやりを行動に変えること、協力して助け合うこと、ものを大切にして無駄を減らすこと**であると整理された。今後も**継続的なアクション、グローバルな視点での積極的な参加**を続けることが重要であると締めくくられた。最後に、児童たちは次のメッセージを世界に発信した。

- **小さな思いやりが世界を変える**
- **行動することで未来はより良くなる**

チャリティ・デーは、**協力・思いやり・行動の3つ**を通して持続可能な未来を創る実践の場であるとまとめられた。

(1日目 (1月11日) 午後の部 プログラム)

元文部科学省 国際統括官補佐 (現日本 ESD 学会理事) 浅井孝司氏よりメッセージ

浅井氏は 2001 年に日本のユネスコスクール (UNESCO ASPnet) の再活性化を促進された方で、2003 年に大阪教育大学附属高校池田校舎、大阪府立北淀高校 (現淀川清流高校)、羽衣学園高校の 3 校ネットワークが形成されたところから「(現)大阪関西ユネスコスクールネットワーク」の活動に至るまで、その成長・発展に寄り添ってきていただいた。2014 年に岡山で開催されたユネスコスクール世界大会の際にはその成功に大きく貢献され、大阪と岡山の ASPnet 校が共に運営する機会をいただいた方でもある。今回、世界大会から 10 年を経て今次の国際フォーラムを開催するにあたり暖かいお力添えをいただいた。浅井氏から参加した全生徒へ「若者が未来を拓く、その行動を称える」旨の応援メッセージをいただいた。



ディスカッションA

ディスカッションA（テーマ：持続可能性を阻害する要因について）

ディスカッションAでは、持続可能性を阻害する要因について議論が行われた。各国のプレゼンテーションで示された内容を整理すると、その要因は大きく三つに分類された。第一に個人の問題、第二に人との関わりに関する問題、第三に政府や社会制度に関わる問題である。本ディスカッションでは、特に人と人との関係に起因する問題に焦点を当てて議論が進められた。参加者からは、いじめや差別といった問題が持続可能な社会の実現を妨げる要因となり得るとの指摘がなされた。これらの問題が生じる背景について意見を共有する中で、他者に対する思いやりの重要性が強調された。具体的には、「自分がしてもらいたいことを相手にもすること」「自分がされたくないことは相手にもしないこと」「発言する前に一度考えること」「正直に話すこと」といった姿勢が大切であるという意見が挙げられた。さらに、こうした思いやりのある行動を実践するためには、相手の立場や気持ちを想像する力、すなわち想像力を持つことが重要であるとの認識に至った。この議論を通して、持続可能な社会の実現には制度や政策だけでなく、個人一人ひとりが他者への理解と想像力を持って行動することが不可欠であることが共有された。

（ディスカッションでは各国通訳ボランティアが大活躍した）



ディスカッション参加者・議長団生徒
会場 大阪公立大学 12階スカイラウンジ

(2日目 (1月12日) 午前の部 プログラム)

会場：大阪教育大学

ディスカッションB, C

ディスカッションB (テーマ：持続可能な社会を実現するために大切にすべき要素)

ディスカッションBでは、「持続可能な社会を実現するために大切にすべき要素」について議論が行われた。参加者からは、ボランティア活動や寄付といった社会貢献活動、平等な教育の機会の確保、地下鉄やバスにおける優先座席の設置など、社会の中で互いを支え合う取り組みの重要性が挙げられた。さらに、これらの取り組みを継続していくために必要な条件についても意見交換が行われた。具体的には、他国や他地域の文化に触れるとともに自らの文化を見直すこと、教育の質を向上させること、そして地域コミュニティへ積極的に参加することなどが重要であるとの意見が示された。また、これらの取り組みに共通する要素について整理した結果、相手を幸せにしたいという思いや、すべての人に平等に権利を与えるという考え方が根底にあることが確認された。加えて、他者への共感や異なる意見を理解しようとする姿勢、協力して物事に取り組むチームワークの重要性も指摘された。さらに、実際に行動を起こすためには、予算や資源といった具体的な支援も不可欠であるとの認識が共有された。これらの議論を通して、持続可能な社会の実現には、多様な立場に立って物事を考え、個人を尊重する姿勢が重要であることが確認された。

ディスカッションC (テーマ：「私たちは未来のために何を学び、どのように行動すべきか」)

ディスカッションCでは、「私たちは未来のために何を学び、どのように行動すべきか」というテーマについて議論が行われた。まず、「未来」とはいつを指すのかという問いについて参加者の間で意見交換が行われ、多様な考え方が示された。具体的には、「今のはすべて未来である」という意見や、「すべての人が幸せに生きることができる時代」、「小学生が社会に出ている約25年後」といった時間的な視点が挙げられた。また、持続可能な開発目標の達成年として設定されている2030年を未来として捉える意見や、持続可能な社会が実現している状態、平和な考え方が社会全体に広がっている状況を未来と捉える意見も示された。さらに、「1秒後も未来である」という意見も出され、未来は決して遠いものではなく、現在と連続しているものであるという認識が共有された。こうした議論を通して、20年後や30年後のより良い社会を実現するためには、遠い将来だけを考えるのではなく、今この瞬間から行動を変えていくことが重要であるという結論に至った。すなわち、未来をつくるための行動は1秒後から始めることができるという考え方が示されたのである。



さらに、未来のために私たちは何を学び、どのように行動していくべきかについて具体的な意見が共有された。環境の観点からは、CO₂排出量を減らすための取り組みの重要性が挙げられた。また、持続可能な社会を実現するためには、個人が知識を深めるだけでなく、アイデアを共有し、他者と交流することが必要であるとの意見が示された。そのための方

法として、日々の学習を通して知識を得ることや、過去の出来事や経験から学ぶことの重要性が指摘された。さらに、実際に現地に足を運び、自分の目で状況を確認することや、他者の意見をよく聞き、多様な情報を広く得ることも重要であるとされた。加えて、発言する側だけでなく聞く側も主体的に考える姿勢を持つこと、行動を起こす前に十分に考えることの必要性についても意見が共有された。また、小さな行動であっても多くの人が継続して取り組むことで大きな変化につながるという考え方が示された。さらに、自分にとって当たり前だと思っていることが、必ずしも他者にとって当たり前ではないという認識を持つことの重要性も指摘された。こうした視点を持つことが、多様な価値観を尊重しながら未来を築いていくための基盤になると考えられる。ディスカッション C を通して、未来のために学び行動することの重要性が明確になった。CO₂削減や日々の学習、アイデア共有、他者との交流など、個人ができる具体的な取り組みが示された。また、他者の立場を想像し、多様な意見や情報に触れること、小さな行動でも多くの人に取り組めば大きな変化につながることも確認された。

これらの議論を通じて得られた最も重要な認識は、「過去は変えられないが、自分たち次第で未来は変えられる」ということである。持続可能な社会を築くためには、今この瞬間から学び、考え、行動する姿勢が不可欠である。



『5か国共同宣言文』作成（各国代表による作成委員会）

共同宣言文を作成するために、まず、各国1名ずつが集まり、**ディスカッション A~C**で意見が交わされた内容を踏まえ、さらに議論を深めたり他の意見を聞いてみたい内容について深めたりする作業を行った。

次に、ディスカッション C で示された「過去は変えられないが、自分たち次第で未来は変えられる」という思いをもとに、この国際フォーラムに参加したすべての人たちが、自分たちで行動を起こせるような内容を導き出すための意見交換がなされ、共同宣言が作成された。（写真は議長団チーム生徒が進行している風景）



フォーラムの成果（学び）の共有（アプトプット）活動

本活動では、フォーラムの2日間の学びを振り返り、その成果をアウトプットすることを目的とした。参加者は、今回参加した5カ国が今後どのような協力や交流を行えたらよいかをテーマに考え、「もし5カ国でこのような約束や活動ができれば、よりよい友達・パートナーになれるのではないか」という視点からアイデアを出し合った。参加者はまず個人でアイデアを考え、小さな記録用紙に記入してテーブルに共有した。その後、チームで話し合いを行い、出されたアイデアをもとに共同で図や絵を作成した。作品は1チームにつき1~2作品とし、タイトルと説明文を付けて、アイデアの内容を視覚的に表現した。

各チームでは、メンバーが出したアイデアの中から特に興味深く面白いものを取り上げ、さらに議論を深めた。その過程で、フォーラムでの学びや経験を振り返り、自分の心に残ったことや感じたことを言葉や表現で共有した。

振り返りでは、以下の観点からそれぞれの経験を整理した。

- 「なるほど、そうか!」と思ったこと (Ah—I see. I thought so!)
- 楽しかったこと (Things I enjoyed)
- 驚いたこと (What surprised me)
- 持続可能な社会に向けたアイデア (Ideas for a Sustainable Society)
- 「困った!」と思ったこと (Things that made me think “Oh no!”)

参加者はこれらの視点を通して、フォーラムでの学びや気づきを振り返り、心を動かされた出来事や考えを表現・共有した。

参加者は、フォーラムでの学びや感じたことを共有するため、以下のいずれかの方法で表現を行った。

1. 1枚の絵と簡単な説明
絵を用いてアイデアや気づきを表現し、短い説明文を添えて内容を伝える。
2. 3コママンガ
3つの場面で構成されたマンガ形式で、出来事や気づきをストーリーとして表現する。
3. 感想文 (Reflection Essay)
フォーラムでの体験や学び、感じたことを文章でまとめる。
4. 身体表現
複数人のチームで協力し、身体の動きやパフォーマンスを通して学びやメッセージを表現する。

これらの方法を通して、参加者はそれぞれの視点からフォーラムでの経験を振り返り、創造的な形で共有した。参加者は本活動を通して、フォーラムでの学びや気づきを振り返り、心を動かされた出来事や考えを表現・共有した。これにより、各国の参加者同士が互いの感じ方や価値観を理解し、学びをより深める機会となった。



2025年度 アジア・北欧ESD/SDGs国際フォーラム宣言

～持続可能な未来を私たちが切り開いていくために～

2026年1月12日作成

2025年度、大阪・関西ASPNETでは、大阪府、奈良県、兵庫県の18校、約100名の小中高生、大学生が集まり、8回のワークショップを経て、それぞれが国際フォーラムを担うための互いを尊重し合い、周りに配慮する力を磨きました。また、韓国、リトアニア、タイ、フィリピンの海外参加者はそれぞれこのフォーラムのために学習を重ね、多くの準備をしてきました。

そして、2026年1月11日、12日のフォーラムでは、各国の海外参加者とともに、持続可能な未来を自分たちで切り開いていくことについて話し合いました。

今回「私たちは未来のために何を学び行動すべきか」というテーマで話し合いました。私たちが考える未来は、私たちが自立し、家庭をもったり、働いている姿をイメージできる20～30年後を想定しました。

その未来では「様々な国や地域が不足を補い合いながら支え合っていく社会」が実現していることを目指します。

そのために、以下のことを学び、行動します。

- ・同じ目標・目的を持っていることを忘れず、問題追求を行う姿勢を持つ
- ・得た情報を自分だけに留めず、身近な人へ共有し学びを広げる
- ・固定概念にとらわれず、客観視する姿勢をもつ
- ・一つの情報を鵜呑みにせず、多方面から情報を取り入れる
- ・目の前の利益にとらわれず、先を見据えて行動する
- ・節電などの小さなことを積み重ねる
- ・意識や考えを行動に結びつけ、実践する気持ちを持つ
- ・問題を理解する能力を育む
- ・様々な方法で人々が共通の意識を持つために、互いに呼びかけ合う姿勢を大切にする
- ・思いやりを持つために想像力を高める

これをもって、私たちの共同宣言といたします。

Declaration of the 2025 Asia-Northern Europe International Forum on ESD/SDGs

January 12, 2026

In the 2025 academic year, the Osaka-Kansai ASPnet brought together around 100 students—from elementary to university levels—representing 18 schools across Osaka, Nara, and Hyogo. Through eight intensive workshops, we cultivated mutual respect and developed our empathy and became more considerate of others. At the same time, our international participants from South Korea, Lithuania, Thailand, and the Philippines took part in extensive preparation, bringing diverse insights for a more sustainable future to this forum.

On January 11 and 12, 2026, we gathered to think about the following question: "What must we learn and how must we act for our future?" We imagined a world 20 to 30 years from now—a time when we will be independent individuals, building families and leading our professional lives.

Our goal is to create a society where diverse nations and regions support one another, filling the gaps in each other's needs so we can succeed together.

Our Commitments

To make the way toward this sustainable future, we must learn and take action in the following ways:

1. **Team Learning:** We will continue to ask questions to address global problems, never losing sight of the common objectives we share as a global community.
2. **Sharing Knowledge:** We will not keep knowledge to ourselves but will actively share and spread it with others.
3. **Fairness:** We will have an objective perspective, and break free from stereotypes and biases.
4. **Evaluating Information:** We will seek information from many sources and perspectives rather than accepting one story.
5. **Long-Term Responsibility:** We will act with a focus on the future, valuing long-term sustainability over short-term interests.
6. **Collection of Small Actions:** We will commit to the consistent practice of small but necessary actions, such as energy conservation, in our daily lives.
7. **Awareness Into Action:** We will foster a proactive mindset that changes our consciousness and thoughts into real actions.
8. **Critical Thinking:** We will deeply understand the main causes of the problems we face in our world.
9. **Creating Team Spirit:** We will value mutual encouragement, using many means to inspire a shared awareness among all people.
10. **Imagination for Kindness:** We will enhance our powers of imagination to foster empathy and be more kind to others.

役割を通じた生徒の成長

Q:2 日間を担った生徒の活躍や生徒の成長・変容についてお書きください。

① 議長団 担当：竹村（紗）先生・原條先生

ディスカッションを円滑に進めるために、まずは、各国のプレゼンテーションを細かく聞き取ることを意識した。各国が課題としていることや大切にしていることは何かを把握し、ディスカッションの進め方を再確認する作業を行った。

ディスカッションでは、すべての国を尊重し、公平を期すために最大限のふるまいと配慮を欠かさないことを改めて係内全体で確認した。丁寧な言葉遣いとアイコンタクト、笑顔、姿勢などに意識を向けるとともに、係内の連携（公平性の確認、キーワードの確認、進行にズレがないかの確認等）を何度も行いながら、議長団としての役割を存分に果たした。

② プレゼン班 担当：蒲生先生・治部先生

小学生プレゼンチームは、6年生2名、5年生1名の計3名で結成された。全員が同校の児童であったため、指定の準備セミナー以外にも、学校の休み時間を活用して自発的に準備を進めることができた。活動当初はテーマに対して自身の考えをうまく表現できない場面も見受けられたが、活動を重ねるにつれて徐々に意見を伝えられるようになり、最終的には児童たちから次々とアイデアが提案されるまでに成長した。この一連の交流を通じて、他者に対して心を開き、相手の意見を受容する経験を得られたことは、非常に貴重な成果であったと評価できる。発表本番においても、通訳のペースに合わせて発言するという事前の約束を遵守し、円滑に進行することができた。このことは、参加者全員が安心して参加できる環境づくりのために、相手を気遣う姿勢の重要性を児童自身が実践できた結果と言える。

中高生プレゼンチームは高校生2名、中学生2名の4校4名の生徒が集まってつくられたチームで、全員が集まって会議や作業することが困難であった。4回の準備セミナーでの係別会議と2回のオンライン会議、さらには共有フォルダ上での情報交換などで意見を交換しながらプレゼン内容を吟味して創り上げた。プレゼン練習も個人単位での練習が中心であったが、当日はチームとして1つの発表を滞りなくおこなうことが出来た。チーム結成当初は人前での発表にも自信が持てない生徒たちばかりであったが、本番発表やディスカッションを経験して、人の意見をよく聞き、自分の考えや意見を発表することの必要性和重要性に気づいたようであった。生徒や教員とのコミュニケーションでも積極性が見られ、活発に関わるできるようになった。

③ 司会班 担当：棚田先生

会場全体の司会進行を行った。事前に作成した司会原稿にしたがって進行したが、スケジュール変更や指示の変更なども多く、各係と連携しながら臨機応変に対応した。司会の係の児童・生徒自身も緊張しており、当日に発生した多くの変更点に戸惑いも見られた。しかし、円滑な進行と会場の雰囲気作りのためには司会が他の係ときちんと連携を取りながら対応することが重要であるとして、自分たちで変更点の確認・共有や原稿の修正・確認を繰り返し行っていた。その中で、係内だけでなく、他の係と協力して司会進行をする姿が見られた。緊張の中でも前に立つときは常に笑顔を意識し、笑顔と言葉で会場をあたたかい雰囲気にはしていた。

④ 運営班 担当：市橋先生

運営としてどう動くべきかをいくらシミュレーションしていても実際に起こるその問題に対応する係であることから、当日に初めて出会う問題がたくさんあった。戸惑いは見えたものの、それぞれ自分が今すべきことを意識して自主的に動くことができた。また、対応一つにしても該当の係にお願いしたり必要な係に報告を入れたり、前後の運営係としての動きの大切さにそれぞれが気づき、それを共有できたことは大きかった。気を抜くことなく2日間をやりきれたことは彼らの成長に繋がったように感じる。

⑤ PC班 担当：峯川先生

本番当日は、会場内での BGM 送出や各国のプレゼンテーションスライドの操作を全面的に担当した。また、ディスカッションの場においては、スプレッドシートを活用したリアルタイムの翻訳支援を行った。

各国の参加者には通訳者が同伴していたものの、議論が熱を帯びる中で視覚的に確認できる英語の翻訳ログは、多くの参加者にとって役立った。これにより、言語の壁を越えたスムーズな進行と、深い相互理解を技術面から下支えすることができた。

運営中には、突如 Wi-Fi 接続が遮断されるといった予期せぬトラブルにも直面したが、班員同士で即座に連携し、テザリングへの切り替えやオフラインでの対応など、臨機応変な処置を講じた。こうした困難を乗り越えた経験は、事前のリハーサルで培った機材への理解と、チームの結束力の賜物であった。

⑥ 写録班 担当：畠山先生

当日は各係の動きや会場全体の様子を記録しながら、進行に応じて場面ごとの撮影を行った。想定外の展開や変化にも対応し、生徒同士の関わりやディスカッションの様子など、その場でしか見られない瞬間を記録した。エンディング動画上映時には拍手が沸き起こり、これまでの記録が会場全体の共有体験となる場面が見られた。

⑦ 受付案内班 担当：浅見先生・向井先生

受付場所を設置し、トイレの案内表示をしたり、華やぐように装飾をしたり、会場までの途中に立って案内をしたりした。参加者、来賓、ゲストの受付、当日のみの参加の方に記名していただくなどを、手分けして行った。また、幼稚園の発表のために来られた保護者や若い兄弟を控え室まで案内するとともに、園児がステージに上がる際の補助をした。1日目の午後は上の会場にエレベーターで移動するため、エレベーターまで案内し、まとまって乗って頂くようにした。朝の受付は同時にたくさんの方が来られるので、臨機応変に動かなければならなかったが、積極的に笑顔で対応していた。

⑧ 環境工房・装飾 担当：池田先生・木村先生

追加で発生した製作物も、手持ちの資材を活用して臨機応変に対応。各国控室に準備した装飾を参加者が喜んでくれたことが、とても嬉しかったようだ。

⑨ オツキーズ班 担当 松本先生

各国担当が集まり、自分たちが調べてきた挨拶や言葉の確認、スケジュールと交代の場面でもどのようにゲストに伝えて交代するか、を打ち合わせる。その後、ゲストの部屋に挨拶に行き、自分たちの役割について話した。ゲストのみなさんや通訳の方がとても優しく対応してくださり、すぐに打ち解けることができた。紙コップやお湯など、準備していなかったものの要望があったり、時間通りにリハーサルが進まない場面などもあ

ったが、ゲストに状況報告をしながら、対話を楽しみ、臨機応変に対応することができた。各国の係の人数が少なかったため、常に緊張する場面が続いたが、チームで協力しながら対応することができた。小中学生のオツキーズも高校生とともに役割を果たした。

第 IV 章

⑤ 国際フォーラムの振り返り 2026 年 3 月 8 日

1 月の国際フォーラムの終了後各学校で報告会を開催したり、学校単位での振り返りを行って、生徒たち自身が生徒なりの成長や発展の確認を行った。これに基づき、行事や学年末試験が終了した 2026 年 3 月 8 日に全体が集まり、国際フォーラムの最終振り返りを行った。迎えと運営を担った生徒、海外から参加した生徒・教員の振り返りを掲載した。

時間	内容	受付：向井	司会：棚田
13：00	準備	国際フォーラムで作成した成果物を貼っておく	
13：30	受付開始		
14：00	第 1 ユニット(畠山)	「学びの振り返り」 → 動画の再生	
14：05	アイスブレイク(治部)	→ 身体を動かす	
14：25	第 1 ユニット終了		
14：25	第 2 ユニット(畠山)	「参加する前と後で変わったことは？」	
		→振り返りフォームの入力、付箋にキーワード3つ記入	
		→お互いに共有(ファミリーの成長から学ぶ)	
14：45	各班模造紙にまとめて発表		
15：00	第 2 ユニット終了		
15：10	第 3 ユニット(竹村紗季、向井)	「宣言文の確認 ー来年度どんな学びをしたいですか？ー」	
15：15	宣言文の中身を確認する (竹村紗季)	宣言文をもとに、来年度どんな学びをしたいか？(向井)	
		テーマ	
		1. 「各学校の仲間たちと」	
		2. 「大阪関西 ASPnet の仲間たちと」	
		3. 「海外の仲間たちと」	
16：00	各班のアイデアを全体にシェア		
16：15	第 3 ユニット終了		
16：15	講評	大阪関西 ASPnet 顧問 伊井先生	
16：30	撤収開始	撤収完了	



生徒の振り返りより

(紙面の都合により日本側はディスカッションによる学びのみの掲載です)

Q:国際フォーラムのディスカッション A・B を通じて、あなたはどのような学びや経験、あるいはどのような気持ちや感覚を得ることができましたか？その学びや経験、あるいは感想や感覚を教えてください。(回収分のみ)

- ・自分の国で起こっている事以外の他国で起こっている事をディスカッションを通して知れて良かったです。
- ・"未来をより良くするために、今の私達は何ができるのか？、またこれらを通して今学ぶべきことは何か？などの問題に対して、ゲストを見守りながら自分も考えることが出来ました。自分が大人になった頃が今よりどれだけ発展しているか、どれだけ環境が改善されているか、それは今の私たちの行動しだいだと思いました。
またこの考えを持ち続け、未来の子供たちにもより良い未来を作る為に、伝え続けていきたいと思ます。"
- ・みんなで支え合って、協力したら、地球にとって良い方向に行くと思った。
- ・各国にはそれぞれの問題点があって、それぞれ違うからこそ、一方的にこうするべき！って方針を決めるんじゃなくて、一緒に話し合っって国によって最適な方法で解決に導くのが大切だなと感じました。
- ・国際フォーラムを通してまず私が一番強く感じたことは、高校生ってこんなにもしっかりしているのか！すごい！ということです。普段生活していて、自分の学校の生徒以外の高校生と関わることがないので、ユネスコを通して知り合った高校生がすごく大人びていたことに衝撃を受けました。自分から仕事を見つけたり、積極的に発言していたり、敬語を正しく使っていたりして、私もこんなふうになりたいと思う反面自分の幼稚さを実感し、自分って全然だめだということに気がつき、もっと自分に厳しくならないといけないなと感じました。また、ディスカッションを通して、周りの人のために何かしようとする気持ちの大切さや、未来を明るくするためにまずは身の回りの小さいことからできることをしていかなければならないということ学びました。
- ・未来というものはいつなのかという問いに、未来は何かは今とは変わって進化しているすごく遠い先のことだと思ってしまうけど、行動を変えた一分一秒先のことも未来だと言えるし決して遠くないんだなと実感しました。そう遠くはない未来のために今すぐにでも行動を始めるべきだと気づいたし、自分自身もこの時代の当事者でありしっかり考えて率先的に行動していく必要があると痛感しました。またこのディスカッションにおいて、各国様々な考えを聞くことができそんな考え方もあるんだとすごく視野が広がったし、この学びを是非活用したいと思いました！
- ・国によって違った課題があって興味深いと感じました。
- ・国によっていろんな考え方がわかったので良かった
- ・世界各地(日本、韓国、リトアニア、タイ)での問題の中心として
- ・各国の歴史的背景は異なるけど、抱える課題は共通している部分があったと感じた。
- ・国際フォーラムに参加して、自分から行動する力、協力する力をより身につけることができたと感じました。話したことがない他の学校の子と交流するには自分から積極的にいかないといけないと思い、不器用ながらも頑張ることができました。自分はこういう活動に今まで参加したことがなかったのでとても新鮮でやってよかったと思いました。
- ・様々な人の考え方を聞いて楽しかった。
- ・"みんなの発言を、ゲレーロ先生が英語翻訳をして打ってくれていた。翻訳も文字起こすのもやってくれた。日本語は、自分とねぎさんが打った。みねかわ先生やむらき先生たちが、発言を要約してくれたので、自分は打つことに集中できて、とても助かった。それでも聞き逃してしまうこともあるから、

そのときは、他の班の人が議長団に聞き逃した部分をきいてくれた。司会班は、機械トラブルや準備の間、頑張って場を繋ごうとしてくれた。

- 正直、文字起こしに集中していたので、あまり内容は覚えていないけど、みんなを満遍なく当てて答えられるようにしていたと感じた。"
- 様々なイジメや差別などの問題があるのは日本だけではなく諸外国にもあるのだと学べた。また、日本、その国独特の問題もあるし、共通の問題もあるのだと学べた。その解決策も考えることができた。
- "今まであまり関心を持ってなかった他国の内情や抱える問題などを知れて、まだまだ解決していく必要のあることはたくさんあると知った。
それぞれの国のもつ意見が少し違いがあったりと聞いていて学びに繋がった。"
様々な価値観を持つ人たちの意見を聞くことで、自分の中でさらにその問題について深く考えられたと思う。
- 環境工房のチーフを通してリーダーとしての、責任を学ぶことができた
- "各国ゲストでディスカッションにおいて重視するポイントが違うのが興味深かった。
シャーロックで結構動いていたので、しっかりとディスカッションを開けたわけではないが各国の状況に重きを置いたり、ゲストの身の回りの環境によって意見が異なったりしていたように感じた。
- 司会や議長団が上手いこと協力して、円滑にディスカッションをまわせていたのが伝わってきた"
- 未来のことに関するお話しでは、未来が 1 秒後だったり 2035 年だったりと近未来の意見が多くあることにビックリしました。
- 国が違えば、起きてる問題も幅広くなってくるので、解決策をたくさん生み出していくことが必要だと感じました。
- 国によっては、政治に関する問題を挙げている国もあったことに衝撃がありました。日本の政治にも全く問題がないとは言えないと思いますが、あの場で学生から声上がることは日本にはあまりない事だなど思いました。学生が日頃考えている事が国によって違うことは当たり前のように少し不思議な感覚でした。
- カメラに集中しすぎていて記憶が定かではないのですが、みんなで問題だと思うことや、自分の意見を伝えていて、とてもグローバルで有意義なディスカッションだなと感じました。また、通訳さんの和訳がわかりやすすぎて驚きました。尊敬します。
- 国際フォーラムのディスカッション A・B を視聴する中で、国や立場によって物事の捉え方が大きく異なることを実感しました。登壇者の論理的な意見の展開や表現方法から、多角的に考える重要性を学び、視野が広がったと感じました。
- "自分たちの学校で続けていきたいことと他の学校の人たちが続けていきたいと考えているものと同じなのか違うのかを知ることが出来たり、考えを共有することが出来た。
普段は学校の人達の意見しか聞いたこと無かったけど、今回のフォーラムで同じグループになった子たちの意見も聞くことだが出来た新しい発見を得ることが出来た。"
- 自分が知らない他国の現状と、自分の国の現状を比べたりしながら、共通点や相違点を探し、ディスカッションをすることができた。また、お互いの意見を潰し合うことなく話し合い、心を開いて思いやりを持って議論できたと思う。このように、心を開いて相手を受け入れる姿勢を持つことで異文化理解などが促進されるのかな、と感じた。
- 世界で起こっている問題や課題の解決に今回のディスカッションを通して少しでもつながったと思う。
- 係の仕事もあって聞けなかったところもあるけど 10 秒後 10 年語 30 年後に平和なミライを築くために私達ができることを各国の皆さんのそれぞれ違った視点の意見を聞いて自分でも考えてみたいと思った。
- いろいろな人と協力して、活動することができた

- ・国際フォーラムのディスカッション A・B などを通して、私は色々な国の方々の考えなどを知ることができました。自分はこのような考えだったけれど、他の国の人達の意見や考え、現状などを知って、このような考えなどもあるんだと感じました。
- ・私は、国際フォーラムのディスカッション A・B を通して、違うバックグラウンドを持った人たち同士対話することの大切さを学びました。ディスカッション A・B では、立場や経験が異なりました。そのため、同じテーマでも考え方や捉え方が大きく違うと気づきました。また、人の意見を正しく解釈することの難しさも実感しました。ディスカッション内で、意見の解釈の違いで少し大変な場面がありました。そのため、自分では理解したつもりでも、相手の本当の意図とはずれてしまうことがあり、丁寧に聞き、確認しながら話し合うことが重要だと感じました。
- ・ディスカッション A はかかりの関係で見れていないのですが、B では国によってもしくは生い立ちによってその人の意見は変わるけど、
- ・"私はプレゼングループに入っていたので前の方の席でディスカッションに参加させてもらいました。進行の方たちが意見が出る度しっかり復唱してくれ、前にもリアルタイムで意見が書き出されとても分かりやすかったです。
短い時間の中で同じグループの人と話し合い、意見をまとめるのはとても難しかったのですが、その短い時間の中でもプレゼングループ全員が意見を出し、聞き、みんなが納得できる案を発表できたと思います。日本では無い問題が海外では沢山あることを知れました。"
- ・未来のことを考えないといけないと感じた
- ・みんなと意見を交換しあって沢山学べた。
- ・国によってさまざまな考えや対策をしていることがわかって興味深かったです。
- ・国ごとに様々な問題や価値観があることを学びました。その中で共通の認識を作っていくという経験を得ることができて嬉しかったです。
- ・自分と同世代のゲスト達がディスカッションに参加して意見を発言していたのがとても自国のことを理解しており、問題点等整理ついていることが凄く、自分では同じ立場になった時今の自分には出来ないと思った。
- ・国別々の事や問題を知れてよかった
- ・色々な国の意見(考え方)を知れてよかった
- ・五カ国の方々と色々な意見を共有しているのを聞いていて、 持続可能を維持するために考えさせられる部分がたくさんあり、自分自身でも視野が広がる感じがした。
- ・他校についての理解が深まった
- ・良かった
- ・"日本チームも海外ゲストも最初は緊張していたと思うけど、ディスカッションが進むにつれてしっかり発言出来た印象
後半になると考えもまとまって行き、ちゃんとディスカッションが出来るのはすごいなーと思いながら見ていた。"
- ・ネットの情報だけでなく、実際にその国の人に来て現地のことを聞くことが大事だなと思った。それぞれの国で、問題は違うなと改めて感じた。

海外参加校の教員の方々からの振り返りより

- (1) After completing the entire program of this forum, what impressions did you have?
Please share your thoughts, feelings, and any reflections you may have.

フィリピン：Jeffrey C. Ginez

Indeed, the voice of the youth truly matters. Empowering the students through their engagement platforms like this recently concluded forum will provide them an opportunity to share, relate, and collaborate with other students from various countries to have positive impact in their own country and context. Overall, the program has positive impact to each of the participants because of the engaging activities.

若者の声は非常に重要であり、本フォーラムのような参加型プラットフォームを通じて学生を支援することで、各国の学生同士が意見を共有し、共感し、協働する機会が提供される。その結果、各自の国や状況において前向きな影響をもたらすことが期待される。全体として、本プログラムは参加型の活動を通じて、参加者一人ひとりに肯定的な影響を与えた。

タイ：Rungthiwa Ketmark

I was deeply impressed by the warm hospitality and the excellent organization of the forum. The preparation and overall arrangements were very well planned, and the additional care and support provided throughout the program made all participants feel welcomed and well looked after. These thoughtful efforts greatly contributed to a smooth, meaningful, and enjoyable learning experience.

本フォーラムにおける温かいおもてなしと優れた運営体制に深い感銘を受けた。事前準備および全体の運営は非常に綿密に計画されており、プログラム期間中を通じて提供された細やかな配慮と支援により、参加者全員が歓迎され、大切にされていると感じることができた。これらの配慮は、円滑で有意義かつ充実した学びの機会の実現に大きく寄与した。

リトアニア：Asta Navickaitė

On behalf of the entire team, we would like to thank the organizers for the exceptional opportunity to be part of this event; our impressions and feedback are extremely positive and favorable.

チーム一同を代表して、今回のような貴重な機会を提供して下さった主催者の皆様に心より感謝申し上げます。今回の経験に非常に素晴らしいものであり、全体として大変満足している。

- (2)-1 Through the discussions, workshops, and other activities of this forum, what did you learn?

フィリピン：Jeffrey C. Ginez

I learned that collaboration is the key to a stronger and more impactful voices. Joining hand-in-hand unify diverse cultures and populations towards the attainment of SDGs as well as sharing of best practice that could be replicated in our own context.

協働こそが、より強く影響力のある声を生み出す鍵であると学んだ。多様な文化や人々が手を取り合うことで、SDGsの達成に向けて一体となることができ、さらに各地の優れた取り組みを共有し、自分たちの地域でも活かしていくことができると感じた。

タイ：Rungthiwa Ketmark

I learned the importance of collaboration and teamwork among participants. The students who joined the forum demonstrated creative and innovative ideas, and they worked together effectively to find meaningful solutions to problems. Their collaborative approach and sense of responsibility were highly appropriate and inspiring for the goals of the ESD project.

参加者同士の協働やチームワークの重要性を実感した。フォーラムに参加した学生たちは、創造性と発想力に富んだアイデアを出し合いながら、課題解決に向けて効果的に協力していた。その姿勢や責任感は、ESDプロジェクトの目的にも合致しており、非常に印象的であった。

リトアニア：Asta Navickaitė

I was amazed at how well the entire program was planned. Active activities and discussions engaged participants of all ages. The interpreters, teachers and coordinators worked with exceptional focus. Many thanks to them.

プログラム全体が非常に綿密に計画されていることに感銘を受けた。アクティブな活動やディスカッションにより、あらゆる年齢層の参加者が積極的に参加していた。通訳者、教員、コーディネーターの全員が非常に高い集中力をもって取り組んでいた。心より感謝申し上げたい。

(2)-2 Trough the study tour in Nara, what did you learn or find?

フィリピン：Jeffrey C. Ginez

I find an opportunity to walk and exercise while enjoying the scenery and weather. It also provides me an opportunity to feed the very tamed deers which manifest that both humans and deers co-exist and how Japanese promote the sanctity of deers and cultural heritage. I also witness how majestic the Todaiji temple and how people preserve this historical place. Japanese faithfully adhere with the interconnectedness of environmental, historical, economical aspects of this amazing place. I so love this place, the people and initiatives being implemented in Nara Park.

散策や運動を楽しみながら、美しい景色や穏やかな天候を満喫することができた。また、人に慣れた鹿に餌をあげることで、人間と鹿が共存している様子や、日本人が鹿や文化遺産の神聖さを大切にしていることを実感した。さらに、東大寺の荘厳さや、人々がこの歴史的な場所を守り続けている姿も目にすることができた。奈良公園では、環境・歴史・経済が密接に結びついた取り組みが忠実に実践されており、この場所、人々、そして行われている活動すべてに深く感銘を受けた。

タイ：Rungthiwa Ketmark

Through the study tour in Nara, I learned a great deal from the student guides, who were highly dedicated to sharing their knowledge. They took excellent care of the participants and made a strong effort to ensure a meaningful and well-organized visit.

奈良でのスタディツアーを通じて、学生がガイドをしてくれたおかげで多くのことを学ぶことができた。歴史や文化の説明はもちろん、参加者への配慮も行き届いており、有意義で円滑な見学になるよう懸命に尽力してくれた。

リトアニア：Asta Navickaitė

The girls looking after us worked very hard and were well prepared. We need to encourage them to communicate in English and motivate them about future opportunities. The city of Nara charmed me with its tranquility, beautiful temples, and deer running around everywhere.

私たちの世話をしてくれた女子学生たちは、とても一生懸命で準備を入念にしてくれていた。今後は、彼女たちが英語で積極的にコミュニケーションをとれるように支援し、将来の可能性を後押ししていくことが大切だと感じた。奈良の街は、静かで美しい寺院と、あちこちを走り回る鹿たちに彩られ、とても心に残る場所だった。

(3) After returning to your country, have you noticed any changes or signs of growth in your students? Please describe them.

フィリピン：Jeffrey C. Ginez

Our two students began planning activities in line with SDGs. Just recently, students launched a podcast discussing their main project in line with the memo released by the Center for Teaching and Learning "Bawal and Plastic" or Plastics are prohibited, in the school community. There are also projects in line with the Global Citizenship education.

帰国後、2人の生徒がSDGsに沿った活動の計画を始めている。先日も、教育学習センターが発表したメモに基づき、学校内で「バワル・アンド・プラスチック（プラスチック禁止）」をテーマについて議論するポッドキャストを立ち上げた。また、グローバル・シチズンシップ教育に沿ったプロジェクトも進行中である。

タイ：Rungthiwa Ketmark

After returning to our country, I noticed positive changes in my students. They have become more confident in expressing their ideas, more aware of global and sustainability issues, and more willing to collaborate with others. The experience helped them develop a stronger sense of responsibility and motivation to apply what they learned in their school and community.

帰国後、生徒たちに前向きな変化が見られた。彼らは自分の考えを、自信を持って表現できるようになり、

地球規模の問題や持続可能性に関する意識が高まり、他者と協力する意欲も増している。この経験を通じて、彼らはより強い責任感を育み、学校や地域社会で学んだことを実践しようという意欲を高めていた。

リトアニア：Asta Navickaitė

I haven't spoken to the students individually yet, but I have reflected on it with their parents. Luknė's father was willing to help with everything and is grateful for his daughter's opportunity to represent the school.

I am also proud of Luknė for being the participant who dared to read the declaration. One can only imagine how much this meant to the student: reading such a document at an international event is an exceptionally powerful motivator for personal growth.

まだ個別に学生と振り返る機会はなかったが、保護者とは振り返りを行った。ルクネさんの父親は、娘があらゆる面で協力的に行動し、学校を代表する機会を得られたことに感謝していた。

また、ルクネさんが宣言文を読むという役割に挑戦したことを誇りに思う。学生にとってどれほど意義深い経験であったかは想像に難しくなく、個人の成長にとって大きな励みになったことだろう。

(4) Do you have any hopes or expectations regarding future International Forums?

Additionally, if you have any messages you would like to share with Japanese teachers or any information you would like to share, please describe them here.

フィリピン：Jeffrey C. Ginez

I would like to express my sincerest gratitude for the warmth and hospitality you extended to us, which commenced from the document preparation to departure. I hope that teachers will have separate activities to help improve our ways in mentoring students who are potential leaders.

書類準備から出発に至るまで、私たちに示してくださった温かいもてなしに、心より感謝申し上げます。また、先生方には将来のリーダー育成に向けて、学生の指導力を高めるための別の活動の機会が設けられることを期待したい。

タイ：Rungthiwa Ketmark

I hope that future International Forums will continue to provide opportunities for meaningful collaboration and deeper exchange among students and teachers from different countries. I also hope there will be more chances for students to actively participate and share their ideas on sustainability and global issues.

I would like to express my sincere appreciation to the Japanese teachers for their dedication, warm hospitality, and excellent organization. Their commitment and care created a supportive learning environment and made the forum a truly memorable experience. I look forward to future collaborations and continued partnerships.

今後の国際フォーラムでも、学生や教員が各国の仲間と有意義な協働や深い交流を行える機会が継続して提供されることを期待したい。また、学生が積極的に参加し、持続可能性や国際的課題について自らの考えを発信できる機会がさらに増えることを望む。

併せて、日本の先生方のご尽力、温かいもてなし、そして優れた運営に対して心より感謝申し上げたい。先生方の献身と配慮により、安心して学べる環境が整えられ、フォーラムは本当に忘れがたい経験となった。今後の協働や継続的なパートナーシップにも期待している。

リトアニア：Asta Navickaitė

To all teachers, we extend our deepest gratitude for your dedication and assistance; you are exceptionally attentive, helpful, and sincere.

先生方は非常に丁寧で、親切かつ誠実に対応してくださった。すべての先生の日頃のご尽力とご支援に心より感謝申し上げます。

(5) Throughout the entire program, are there any aspects that could be improved?

If so, please let us know.

フィリピン：Jeffrey C. Ginez

The activities are well planned and thought of. I love everything you prepared for us, especially the students. I just hope students will also have opportunity to do a certain task.

活動は非常によく計画されており、細やかな配慮が行き届いていると感じた。準備してくれたすべてのこと、特に学生に対してしてくれたことを大変ありがたく思う。あとは、学生自身が何らかの課題や役割に

挑戦できる機会もあるとさらに良いと感じた。

タイ：Rungthiwa Ketmark

Overall, the program was very well organized and thoughtfully designed. At this time, I do not have any specific suggestions for improvement, as the forum was already conducted at a very high standard. 全体として、プログラムは非常に整然と運営され、細部にまで配慮が行き届いていた。現時点で特に改善点は思い当たらない。フォーラムはすでに非常に高い水準で実施されていたと感じる。

リトアニア：Asta Navickaitė

It is very important for the Lithuanian team to continue cooperation with all countries that participated in the forum. If other team leaders share the same opinion, I would be happy to exchange contact details. We have ideas on how we could nurture this acquaintance.

リトアニアチームにとって、本フォーラムに参加したすべての国との協力を今後も継続していくことは非常に重要である。他のチームリーダーの方々も同じ意見であれば、連絡先を交換ができれば嬉しい。今回の出会いをさらに発展させるためのアイデアもある。

(6) Please feel free to share any messages for the host students or the teachers.

フィリピン：Jeffrey C. Ginez

For the host family, thank you for taking care of our two students. I have learned that they are well taken care of and you even designed a program of activities for them. Your hospitality, dedication and commitment to receive our students have contributed to their experiences that geared toward building rapport with others as future leaders.

私たちの2名の学生を受け入れてくれたホストファミリーに感謝したい。学生たちが大切に扱われていることを実感するとともに、特別な活動プログラムまで用意してくれていたことに感銘を受けた。皆様の温かいもてなしと献身的な対応により、学生たちは、将来リーダーとして他者と信頼関係を築く貴重な経験を積むことができたと思う。

タイ：Rungthiwa Ketmark

I would like to sincerely thank the host students and teachers for their warm welcome, dedication, and excellent care throughout the program. The students showed great responsibility, enthusiasm, and confidence, while the teachers provided strong support and guidance. Your efforts made the program a truly meaningful and memorable experience for all participants.

プログラム期間を通じて、温かく迎えてくださったホスト学生および先生方に心より感謝申し上げます。学生たちは責任感と熱意、そして自信をもって取り組み、先生方は力強いサポートと指導を提供してくださいました。皆様のご尽力により、参加者全員にとって本当に有意義で忘れがたい経験となった。

リトアニア：Asta Navickaitė

I am grateful to the family who took care of our girls; I understand that their decision to welcome two people from another country into their home demonstrates their secular approach to community and modernity.

私たちの女子学生の世話をしてくださったご家庭に心より感謝申し上げたい。ホームステイの迎え入れは、地域社会や現代的な価値観に対して開かれた姿勢の表れだと感じた。

(7) If you have any other comments or thoughts, please feel free to share them here.

For examples including your ideas about the future of the five-country network or any personal reflections.

フィリピン：Jeffrey C. Ginez

I hope that the five-country network will be sustained so that the sharing of values, culture, skills and knowledge will continue to flourish. Also, we hope to build linkage and partnership with them so that our students as well as teachers will be exposed to various context to foster growth and development in the attainment of SDG goals and targets.

私たちは、この5か国のネットワークが継続され、価値観や文化、スキル、知識の共有がさらに発展していくことを期待している。また、これらの国々との連携やパートナーシップを構築することで、学生だけ

でなく教員もさまざまな環境に触れ、成長や発展を促進し、SDGs の目標達成につなげていきたいと考えている。

タイ：Rungthiwa Ketmark

I hope that the five-country network will continue to grow stronger through sustained collaboration, regular exchanges, and shared projects among students and teachers. This forum has shown the great potential of international cooperation in promoting ESD, and I believe it will have a lasting positive impact on both education and students' global perspectives.

5 か国のネットワークが、学生や教員同士の継続的な協力、定期的な交流、共同プロジェクトを通じて、さらに強化されていくことを期待している。本フォーラムは、ESD の推進における国際協力の大きな可能性を示しており、教育面だけでなく、学生たちが国際的な視野を広げることにも、長く良い影響をもたらすと信じている。

リトアニア：Asta Navickaitė

We would seriously consider the possibility of holding an international conference in the spring of 2027, inviting delegations of similar composition. Of course, we would make an exception for the Japanese team, because you are our old and trusted friends.

2027 年春に、同様の構成の代表団を招いた国際会議の開催を、真剣に検討したいと考えている。もちろん、日本チームについては私たちの古くからの信頼できる友人であり、特例として招待するつもりである。

海外参加校の生徒からの振り返りより

(1) After completing the entire program of this forum, what impressions did you have?
Please share your thoughts, feelings, and any reflections you may have.

フィリピン：Kobe Brylle L. Tolentino

The program was a success! It provided me a greater appreciation for Japan and how they accommodate guests and hosting programs. More than the stay itself, I would definitely say that the best part of the program was the homestay and the workshop during the fourth day.

プログラムは大成功でした！日本や日本人のもてなしの心、ゲストやプログラム参加者への配慮について、より深く理解することができました。滞在そのものも素晴らしかったのですが、特に印象に残ったのは、ホームステイと4日目のワークショップです。

タイ：Teerada Naksomphan

I have a really great impression of young people in our generation. It's an inspirational forum for everyone to learn and share our ideas. And it's still amazes me that five-countries that have different cultures and different languages can work together this well and leave me such a memorable memory that will last in my heart.

私たちの同世代の若者たちに対して、とても良い印象を持った。フォーラムは、誰もが学び、意見を共有できる非常に刺激的な場であった。そして、文化や言語の異なる5か国の参加者がこれほどまでに協力し合い、心に残る素晴らしい経験を共有できたことに、今なお感動している。

タイ：Pathita Singngam

I really impressed about management and taking care of us.

私たちへの配慮や運営の仕方には、本当に感銘を受けました。

リトアニア：Raminta Laučiūtė

I'm very delighted to hear that students of different grades are learning, thinking and trying to change prospective to some things that might help in the future. Also it was very interesting to hear about problems, solutions and different perspectives to same things from across the world.

さまざまな学年の学生たちが学び、考え、将来に役立つことについて視点を変えようと努力していることをとても嬉しく思います。また、世界各地から同じ事柄に対する問題点や解決策、さまざまな視点を聞くことができ、とても興味深かったです。

リトアニア：Lukne

I really liked that students of Japan are friendly, tolerant and they made anyone feel welcome. Also everyone was very helpful and nice.

日本の学生たちはみんな親しみやすく、寛容で、誰にでも温かく接してくれました。また、皆さんとても親切で助かりました。

(2)-1 Through the discussions, workshops, and other activities of this forum, what did you learn?

フィリピン：Kobe Brylle L. Tolentino

I learned how each country faces a problem differently. Each country has unique ways to respond to their challenges.

異なる国の学生たちが、今日私たちが直面している課題をどのように捉えているかを学ぶことができた。

タイ：Teerada Naksomphan

I've learned to working with a lot of incredible people, through this forum I've learned to make friends and shared my thoughts with others people. Also the culture differences make the impact as well, It's very great that we all can learn about each other culture.

このフォーラムを通じて、多くの素晴らしい人々と協力すること、友達を作り、自分の考えを他の人と共有することを学んだ。また、文化の違いも大きな学びとなった。お互いの文化について学び合えることは、とても貴重な経験である。

タイ：Pathita Singngam

I learned a lot not just about how we can create our sustainable future life but I also learned about exchange thought, working together. Learning that if we work together we can really make the future we want.

持続可能な未来の暮らしをどう作るかについてだけでなく、意見を交換し、協力して取り組むことの大切さも学びました。みんなで力を合わせれば、本当に望む未来を作ることができるということを学びました。

リトアニア：Raminta Lauciūtė

Every action matters, it doesn't matter how old, young, capable or not you are, small actions make a difference and good deeds and kindness are contagious.

どんな行動でも意味があります。年齢やできることに関係なく、小さな行動が大きな変化を生むことがあります。優しさや善意は、周りにも広がっていきます。

リトアニア：Lukne

I learned how students from different countries view the issues we face today.

異なる国の学生たちが、今日私たちが直面している課題をどのように捉えているかを学ぶことができた。

(2)-2 Trough the study tour in Nara, what did you learn or find?

フィリピン：Kobe Brylle L. Tolentino

I learned how Japanese people value their relationship with nature and animals. I also learned how deeply rooted Japan is to their customs and culture.

日本の人々が自然や動物とのつながりを大切にしていることを学びました。また、習慣や文化が生活に深く根付いていることにも感銘を受けました。

タイ：Teerada Naksomphan

I find Japanese culture really fascinating, the architecture and the rich of history is so beautiful to me. The nature and the atmosphere is really remarkable, it's so great to see that animals and nature can still be this beautiful and living together with human.

日本の文化は本当に魅力的だと感じました。建築や豊かな歴史がとても美しいです。自然やその雰囲気も非常に印象的で、動物や自然が人間と共にこんなに美しく生きている様子を見ることができ、とても素晴らしいと思いました。

タイ：Pathita Singngam

Japanese culture, architecture, beliefs
日本の文化、建築、信仰

リトアニア：Raminta Lauciūtė

It was very interesting too learn about different religion, some small things about the Great Buddha Hall and it's surroundings. I was also very excited to see the Sika deers, it was a bit shocking how curious, cute, friendly and brave they were.

さまざまな宗教について学べたことや、大仏殿とその周辺の小さな特徴について知ることができ、とても興味深かった。また、シカに出会えたことも大変嬉しかった。好奇心旺盛でかわいらしく、親しみやすく、勇敢な姿には少し驚かされた。

リトアニア：Lukne

I learned a little about the deers, the history of the temple and the statues in it.

鹿についてや、寺院の歴史、そして境内の仏像について少し学ぶことができた。

(3) After returning to your country, how do you plan to apply and share what you learned or experienced at this forum within your school, local community, or country?

フィリピン：Kobe Brylle L. Tolentino

I plan to share what I have learned to my co-students, friends, and classmates so that they would understand that a sustainable future is built through meaningful conversations from people who you don't usually meet every day.

学んだことを、同級生や友人、クラスメイトと共有しようと思う。日常ではなかなか出会わない人々との有意義な対話を通じて、持続可能な未来が築かれることを理解してもらいたい。

タイ：Teerada Naksomphan

I plan to share my experiences and participate in the activities our school created to inspire more of our students. As a third year high school student I may graduate soon so I don't have much time in my school, but I will continue this journey in university. I will work and learn more to help our world develop into a sustainable society.

自分の体験を共有し、学校が企画する活動にも参加して、より多くの学生たちに刺激を与えたいと考えている。高校3年生として卒業も近いため学校での時間は限られているが、この学びの旅は大学でも続けていくつもりだ。今後も学びを深め、持続可能な社会の実現に貢献できるよう努力していきたい。

タイ：Pathita Singngam

I plan to share this experiences by telling people what I experienced in Japan

私が日本で体験したことをみんなに話して、この経験を共有したいです。

リトアニア：Raminta Lauciūtė

I know at school I will have to give a presentation about the forum, I believe most of my friends have already heard from me about my time in Japan, even though I will try my best to spread the word out about the program, its work, potential and goals. But also I will try my best to make small steps if kindness towards others, so the kindness and want to change for the better spread amongst people around me.

学校でフォーラムについて発表する予定です。友達の多くはすでに私の日本での経験を聞いていると思いますが、それでもプログラムの内容や活動、可能性、目標をできるだけ多くの人に伝えたいです。また、小さな親切を積み重ねることで、周りの人たちにも優しさや前向きな気持ちが広がるよう、私も努力していきたいです。

リトアニア：Lukne

I would share the ideas with my classmates so we can think of effective solutions that could be used in our school, city and country.

学んだアイデアをクラスメイトと共有して、学校や地域、国で実際に役立てられる効果的な解決策をみんなでも考えたいです。

(4) Did your homestay provide you with an understanding of daily life in Japan? If you have any comments or suggestions for improvement, please share them here.

フィリピン：Kobe Brylle L. Tolentino

Yes. The whole family was very welcoming and they provided a tour for me in their town. ホストファミリーは皆とても温かく迎えてくださり、町の案内までしていただいた。

タイ：Teerada Naksomphan

My homestay host is really nice, they provide me with the best I can ever ask for. They've treated me with kindness and support, made me feel like I'm at my home. In the future if I have a chance to visit Japan again I'll definitely come see them.

ホストファミリーは本当に素晴らしく、私が望む以上のもてなしをしてくださった。温かく親切に接してくれ、まるで自宅にいるかのように安心できた。将来また日本を訪れる機会があれば、ぜひ再びお会いしたいと思う。

タイ：Pathita Singngam

Yes, I understand a lot of Japanese culture and daily life in Japan. Everything was so good. はい、日本の文化や日常生活のことをたくさん学べました。どれも本当に素晴らしかったです。

リトアニア：Raminta Lauciūtė

Yes, I'm very very gratefully to have had this opportunity to spend a few days with my homestay family. For someone from a different continent and culture, I was very curious and open to learn new things. This opportunity taught me to be open, learn, adapt and live in the moment.

はい、ホームステイ先のご家族と数日を過ごす機会をいただけたことに、心から感謝しています。異なる大陸や文化の出身者として、新しいことを学ぶことにとっても興味を持ち、柔軟に受け入れる気持ちで臨みました。この経験を通して、心を開き、学び、順応し、今この瞬間を大切に生きることを学びました。

リトアニア：Lukne

I had the best time staying with a host family. It was really fun. They let us try traditional Japanese food and experience Japanese culture. I am really grateful.

ホストファミリーと過ごした時間は本当に楽しく、素晴らしい経験だった。伝統的な日本食を試したり、日本文化を体験させてもらったりすることができ、とても感謝している。

(5) Throughout the entire program, are there any aspects that could be improved? If so, please let us know.

フィリピン：Kobe Brylle L. Tolentino

For me, the program was nice already. Keep up the good work!

私にとって、このプログラムはもう十分に良かったです。これからも頑張ってください！

タイ：Teerada Naksomphan

I would like to visit more places because I myself like to travel to different places and I think it would be great if we have more time to spend together besides the main event of the forum.

もっと多くの場所を訪れたいと思う。私は旅行が好きなので、フォーラムのメインイベント以外の時間も一緒に過ごす機会があれば、さらに充実した経験になると感じた。

リトアニア：Raminta Lauciūtė

No, I beleave everything worked out perfectly. All planed activities ran smoothly, and any faced problems were solved quickly and efficiently.

いいえ、私はすべてが完璧に進んだと思います。予定されていた活動はすべて順調に行われ、発生した問題も迅速かつ効率的に解決されました。

リトアニア：Lukne

I really appreciate the effort of Japanese students, but sometimes it was a bit difficult to understand each other because of a language barrier. But nevertheless they tried their best and everything went smoothly.

日本の学生たちの努力には本当に感謝している。ただ、言語の違いから時々意思疎通が少し難しい場面も

あった。それでも、皆が最善を尽くしてくれたおかげで、全体はスムーズに進んだ。

(6) Please feel free to share any messages for the host students.

フィリピン：Kobe Brylle L. Tolentino

Hello, Yoshi-san! I hope you are doing well! Let's always talk in whatsapp or email! Wishing you a successful and happy life!

こんにちは、よしさん！お元気でいらっしゃいますか。これからもぜひ WhatsApp やメールで連絡を取り合いましょう。よしさんの今後のご活躍と幸せをお祈りしています。

タイ：Teerada Naksomphan

Sachie, thank you for you and your family for looking after me. I miss you and your mom really much. I wish you all the best and I hope you will succeed in your dreams. May your music bring happiness to all.

さちえさん、そしてご家族の皆さん、私の世話をしてくださり本当にありがとうございました。さちえさんとお母さんがとても恋しいです。皆さんのご健康とご多幸をお祈りするとともに、夢が叶うことを願っています。あなたの音楽が多くの人に幸せをもたらしますように。

タイ：Pathita Singngam

The only thing I have to say is thank you so much even though I have said it before but I will say it again and again. Thank you so so much for taking care of me and always be by my side, you are really my best Japan's memory.

言いたいことはただ一つ、改めて心から感謝します。以前も言いましたが、何度でも言います。本当に、本当にありがとうございました。私のことを気にかけてくれて、いつもそばにいてくれて、あなたたちは私にとって日本で最高の思い出です。

リトアニア：Raminta Laučiūtė

Hello everyone. Some of you might got our little present and thank you note. But I want to thank you again. Thank you for your kindness, hospitality, care and everything that you did. Because of you every day felt lighter, not that stressful and easier. I'm very very happy to have had this opportunity to have met some of you, you are all very talented, smart and active, don't lose your spark, believe in yourself and things that you do, and in the end everything will work out perfectly. Best wishes and love from Lithuania.

Raminta

皆さん、こんにちは。中には私たちからのちょっとしたプレゼントやお礼のメッセージを受け取ってくれた方もいるかもしれませんが、改めて感謝の気持ちを伝えたいです。親切にしてくださり、温かく迎えてくださり、色々とお気にかけてくださって、本当にありがとうございました。皆さんのおかげで、毎日がとても楽しく、ストレスなく過ごせました。この機会に皆さんと出会えたことを心から嬉しく思います。皆さんは本当に才能があって、賢く、積極的な方ばかりです。その輝きを失わず、自分自身や自分のやっていることを信じてください。そうすれば、最終的にすべてがうまくいきます。リトアニアより、心からの愛と最高の願いを込めて。ラミンタ

リトアニア：Lukne

I am very grateful for such a special opportunity to be apart of your lives even if it was for just a couple of days. I made so many precious memories that are very dear to me. It was very fun to meet everyone. I really hope to see you again some time. Thank you very much.

たった数日間ではありましたが、皆さんの生活の一部に関わるという特別な機会をいただけたことに心から感謝しています。かけがえのない思い出がたくさんでき、とても大切に感じています。皆さんに会えて本当に楽しかったです。またいつかお会いできることを心から願っています。ありがとうございました。

(7) If you have any other comments or thoughts, please feel free to share them here.

For examples including your ideas about the future of the five-country network or any personal reflections.

フィリピン：Kobe Brylle L. Tolentino

I hope that the young elementary and high school students who were part of this event will continue to have these passion and drive to build a sustainable future for their home country and for the world. May they continue to be leaders who activate change wherever they go.

今回のイベントに参加した小中高生たちが、この情熱と意欲を持ち続け、自国や世界の持続可能な未来のために行動し続けられることを願っています。どこに行っても変化をもたらすリーダーとして活躍してほしいです。

タイ：Teerada Naksomphan

I think if we can have more outdoor activities that we all can make our ideas to work it would be great, or maybe a volunteer activity that can make us accomplish something in our heart.

もし、みんなでアイデアを実際に形にできるようなアウトドア活動がもっとあれば素晴らしいと思います。あるいは、心の中で何かを達成できるようなボランティア活動もあればいいかもしれません。

以上、多くのコメントが寄せられました。どうもありがとうございました。

【日本から参加した生徒の「自己の最高点にタッチ」できた割合、並びに「成長感を強く感じた」度合の平均値は次の通り。】

最高点にタッチできた：4点満点中 **3.80** 点 成長感を強く感じた：4点満点中 **3.85** 点

【動画 URL 一覧】

学校紹介動画 : <https://youtu.be/CnjOmTHhjK4?si=K5r6oENcHwxSmezY>

ふりかえり動画 : <https://youtu.be/CQBM3TgetmU>

【通訳ボランティアの皆さん】

Nuntathamrongpong Kantharat さん（タイ通訳）、タピアミゲルさん（フィリピン通訳）、山下陽々さん（韓国通訳）、Gaudre Trainyte さん（リトアニア通訳）

【写真撮影/動画作成をいただいた先生】

写録班の生徒のみなさん

鶴若 智 先生（アサンプション国際小学校）村木寛人 先生（大阪成蹊女子高等学校）

竹村颯真 先生（大阪府立淀川清流高等学校）

【国際フォーラムの運営・参加校一覧】 50 音順

アサンプション国際小学校、大阪教育大学附属高等学校池田校舎、大阪成蹊女子高等学校、大阪府立佐野高等学校、大阪府立住吉高等学校、大阪府立富田林中学校高等学校、大阪府立長野高等学校、大阪府立松原高等学校、大阪府立淀川清流高等学校、関西創価中学校、神戸市立大沢中学校、神戸龍谷中学校高等学校、帝塚山学院中学校高等学校、富田林市立富田林幼稚園、奈良育英高等学校、奈良県立国際中学校・高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校、兵庫県立川西明峰高等学校、箕面こどもの森学園（NPO 法人コクレオの森）

【ご支援をいただいた団体/方々】

公益財団法人森村豊明会 日本ユネスコ国内委員会 大阪府教育委員会 奈良県教育委員会 兵庫県教育委員会 大阪市教育委員会 元文部科学省浅井孝司氏 ユネスコ協会連盟米田伸次氏 株式会社名鉄観光教育旅行社 株式会社 TCE 大阪教育大学天王寺キャンパス 大阪公立大学 学長室・広報課・森之宮キャンパス職員の皆様 他

【 謝 辞 】

今次の「UNESCO ASPnet アジア・北欧 5 か国中高生による ESD/SDGs 国際フォーラム」は 2024 年夏から計画され、財団法人森村豊明会からのご支援が決定してから 2025 年 4 月より新たな学年や分掌をお持ちの先生方の熱意に支えられて準備が開始されました。集まった生徒の中には、遠くは 2 時間かけて兵庫県や奈良県から集う真剣なまなごしの生徒たちもおり、その期待を受けて各回の意義や参加生徒の学びの質を確認しながら進められてきたところです。学年・地域・事情が異なる生徒たちの学びあいは、各回ともに生徒の意欲によっても大きく支えられ、協働することによる相乗的な意欲の発揮が教員の協働力をも一層増すこととなったように思われます。また、今回初めてユネスコスクールの幼稚園（富田林幼稚園）も参加しましたが、人生の初期から大人までの各段階の生涯の発展をも意識することになったようにも思います。

生徒が運営する国際フォーラムの企画は、2014 年に開催された 32 か国によるユネスコスクール世界大会以後、2 か国、3 か国規模での開催にとどまり、特にコロナ禍以後は開催されていませんでした。しかし、若手の先生方がこのネットワークにかかわり世代交代が進んでユネスコの教育や国際連携への関心が深まったこと、そして何よりも生徒が記した「振り返り」にも大きく表れているように、既存の学校教育とは異なった広い視野と多様な価値観の獲得、そして国際視点での自己の深まりがあったことなど、改めて 5 か国で開催したことの大きな成果と意義を確認することができました。このことは、日常の学びあいの場の質を高めると同時に、この機会そのものが平和の文化の構築、持続可能な社会の構築に結び付く点においてきわめて世界に貢献できる活動として位置づけられるとも確信したところです。最後に、久々の 5 か国フォーラムでしたが、韓国、タイ、フィリピン、リトアニアの先生方・生徒のみなさんのすばらしい協力を得て無事に開催できましたこと、そして公益財団法人森村豊明会様ほか、今次のフォーラムに多方面からの暖かいご賛同と厚いご支援をいただいて無事に終了できましたことに、心より感謝申し上げます。



大阪教育大学天王寺キャンパス講堂（会場提供）でのファイナル写真

発行：2026年3月27日
編集：大阪・関西ユネスコスクールネットワーク
事務局長 畠山尚之・事務局次長 向井小雪
監修：同ネットワーク顧問
伊井直比呂
印刷：株式会社ひまわりプリント